文部科学省指定事業

令和4年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業

【普通科改革支援事業】

実施報告書（第1年次）

令和5年3月

高知県立清水高等学校

目次

Ⅰ　巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　本校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　令和４年度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

Ⅴ　カリキュラム開発について・・・・・・・・・・・・・・・・・20

Ⅵ　実践報告Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

Ⅶ　実践報告Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

Ⅷ　実践報告Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

Ⅸ　研究報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

参考資料（高校魅力化評価システムの結果）・・・・・・・・・・47

（各種アンケートの結果）・・・・・・・・・・・・・・・・・53

Ⅰ　巻頭言

発刊にあたって

高知県立清水高等学校長　市原　庸寛

本校は、令和４年度から、文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業　普通科改革支援事業」に指定され、土佐清水の偉大な先人である中浜万次郎（ジョン万次郎）の精神を理念として掲げ、探究心をはじめ精緻な分析力や深い思考力を備え、新たな価値を創造できる人材を育成するカリキュラムの開発に取り組んでいます。

本校が所在する土佐清水市は、四国最南端の風光明媚な名勝地です。しかし、多くの地方都市が直面する過疎化や少子化の大きなうねりに巻き込まれ、近年は人口減少が著しく、特に 14～16 歳の若者が市外に転出する事例が年々増加しています。本校においても、この 30 年間で生徒数が 90％近く減少し、一気に規模の縮小が進んでいます。このような状況下にあるため、教育環境は大きく変化しました。

このような状況を改善するためには、前例にとらわれない大胆な発想と、未来志向の視点が必要となります。不易と流行の観点から学校教育が果たすべき役割は何か、若者たちが地域や社会を支えるために必要となる資質や能力は何か、そして、地域の高等学校として、地域の方々からどのように期待されているのかを再考し、改革の方向に舵を切りました。

ジョン万次郎が生きた激動の幕末期と現代の VUCA とには多くの共通点があります。先が見通せない時代こそ、新たな価値を創造する力が求められます。学校での学びを社会や世界で実際に活かすためには、これまで不変とされてきた部分にも大胆に切り込み、改革を進めるチャレンジ精神が必要です。このような勇気ある挑戦は、本校のような教育環境が制限され、都会との格差に委縮しがちな地方の高校生に、最新の教育環境を整備し、最先端の学びを提供することにつながります。これにより、これまで物理的・地理的要因に阻まれ、触れる機会がなかった多様な学びの機会を確保できると考えられます。つまり、この取組によって、これからの時代に求められる「真正の学び」が実現すると考えます。さらに、高等学校での学びの高まりは、地域の活力再生にもつながります。

このような大きな挑戦の機会を得たところですが、あらゆる取組において課題に直面しながら進めているのが実状です。しかしながら、学校と地域や関係機関が手を取り合って協力すれば、困難を克服できると信じています。多くの方々にお力添えをいただきながら、着実に歩みを進めていくことができれば幸いです。どうか、今後とも皆様のご協力をお願いすることを申し添えながら、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

令和５年３月

Ⅱ　本校の概要

1　所在地　〒７８７−０３３６　高知県土佐清水市加久見８９３−１

2　学校の基本理念

（１）校訓　「自由」「平等」「博愛」「寛容」

（２）目指す学校像

地域の未来を担う人材の育成

（３）目指す生徒像

○　学ぶ意欲を持ち、納得するまで考え判断し行動できる生徒

○　高い志や目標を持ち、その実現に向けて挑戦し努力できる生徒

○　豊かな人間性を備え、他者と協働できる生徒

（４）目指す教師像

○　高い専門性と指導力をもつ教師

○　柔軟性と想像力を備え、生徒に夢を与えることのできる教師

○　高い使命感と倫理感、豊かな人間性を持つ教師

（５）学校経営方針

伝統、校風を継承するとともに、組織的な学校運営に努め、生徒の実態や社会の変化を踏まえながら、教育活動の計画、実践、評価、改善を行う。そして、生徒が満足し、保護者や地域に愛される学校を創造する。

（６）重点事項（全日制）

①　基礎学力の定着と学力の向上

②　社会性の育成

③　基本的な生活習慣の確立

④　連携型中高一貫教育の推進

⑤　地域との連携

⑥　国際交流活動の推進

（７）生徒数

１１０名（３年：３４名、２年：２７名、１年：４９名）

3　これまでの研究等

（１）地域学校協働本部事業

令和２年度から、地域と学校が一体となった教育活動を推進するため、学校運営協議会を設置し、学校の教職員と学識経験者、地域の教育関係者、住民と学校の魅力化や取組について協議を行い、活性化のための方策を検討している。特に、総合的な探究の時間における地域課題解決学習については、地域協働コーディネーターを配置し、学校と地域との連携をサポートしている。

（２）AI 教育推進事業

令和２～３年度の２年間、高知県教育委員会事務局高等学校課所管の「AI 教育推進事業」の西部地区拠点校として、ICT を効果的に活用した授業づくり等の研究を行なった。具体的には、生徒にタブレット端末を貸与し、授業や家庭学習等に活用することやAI ドリルを活用した学力向上対策についての実践研究を行なった。特に、タブレット端末の活用については、「主体的・対話的で深い学び」の実現を促す効果的な活用方法について様々な実践が行われ、生徒は授業で学んだことをレポートとしてまとめたり、授業で獲得した基礎的な知識を活用して課題解決的な視点で内容を掘り下げプレゼンテーション形式で発表したりする際にタブレット端末を効果的に活用するなど、授業改善の視点での取組を継続的に行なっている。

Ⅲ　事業の概要（新時代に対応した高等学校改革推進事業）

1　事業の目的・目標について

本校が所在している土佐清水市は、四国最南端に位置し、県都高知市から公共交通機関で３時間余り、首都東京からの移動が日本で最も時間を要する市とされている。

同市は、足摺宇和海国立公園を有し、黒潮本流が日本で一番早く接岸する地として、豊かな海洋資源に囲まれ、水産業や観光業を中心に海とともに発展してきた。目の前に広がる太平洋、水族館や海底館、奇岩で知られる竜串・見残海岸などダイナミックな自然が体験できるまちである。また、同市は、日本ジオパークの認定（令和３年９月認定）に向けた取組を契機に、市全体でジオパークに関わり、グローバルな課題の解決を地域とともに考え、世界に向けて発信する取組を始めている。

本校は、この土佐清水市にある唯一の普通科の高等学校として、地域に根差した教育活動を行ってきた。グローバル化やＩＣＴ技術革新が急激に進み、物理的な距離が解消されつつある現代において、同校では、同市の豊かな自然環境や日本ジオパークといった教育資源を活用した最先端の学びを取り入れ、グローバルな課題にチャレンジできる人づくりを目指し、教育カリキュラムの見直しに着手することとした。

具体的には、法改正により令和４年度から設置が可能となった、普通教育を主とする学科のうち学際領域学科の設置に向け、取り組むこととした。

目的とする人材育成により身に付けたい力については

①自然科学、社会科学、人文科学の各分野について、横断的に学び、専門性にとらわれない柔軟な思考を身に付けている。

②課題や目的を自ら設定し、国際的な視野で問題を解決しようとする態度を身に付けている。

③多様な他者と協働して新たな価値を創造する力を身に付けている。

という３点を設定した。

目的を達成するため

①特定の分野に偏らない学びを実現させるため、文理融合した教科横断的なカリキュラムを開発する。

②最先端の科学を学ぶため、自然科学・社会科学・人文科学等の分野について、大学、研究機関、官公庁、民間企業等と連携する。

③国際的な視野を身に付けさせるため、英語教育を充実し、国際交流を促進する。

④コンソーシアムと連携し、学校内外が一体化した教育活動を行うことで、社会に開かれた教育課程を実現する。

を目標として掲げ、土佐清水市の協力を得ながら研究を行うこととし、人材育成のメイン・コンセプトを「21 世紀のジョン・マン　Think　Globally, Act　Locally」とした。

ジョン・マンとは、日本人初の米国留学生であるジョン万次郎のことであり、土佐清水市が輩出した偉人である。ジョン万次郎は、アメリカで英語、数学、測量、航海技術、造船技術など幅広く学び、学際的な視点をもって問題解決にあたった。日本と外国との橋渡しを行い、日本の国際化に大きく寄与した人物でもある。鎖国時代に異国の地に赴く好奇心や様々なものに興味関心を持って行動する探究心、時代の変化に柔軟に対応した生き方は「ジョン・マン・スピリット」として土佐清水市で継承されており、目的に示した力を持った人材像に一致する。

また、土佐清水市はジョン万次郎と関わりの深い米国マサチューセッツ州にあるフェア・ヘイブンなどと姉妹都市提携を結び、生徒を派遣するなどの交流が続いている。今後はジョン万次郎の行動をたどる探究的・体験的な学びとともに高度な英語運用能力の育成を目指すため、同市との長期交換留学について協議することとしている。

このような地域の教育資源を生かすとともに、ＩＣＴを活用した最先端の科学技術に触れる機会を確保した学際領域学科の設置を検討することとした。

２　事業の推進について

本校は、土佐清水市唯一の高等学校であり、地域にとっても地域の振興や人づくりのためになくてはならない地域の最高学府として位置付けられており、土佐清水市の課題を解決していくために、グローバルな視点に立って新しいことにチャレンジし、劇的な変化を生み出すことができる人材を育成することを期待されている。このことは、本校が地域の最高学府として、少子化が進む同市において、地域の子どもたちを、地域において新たな価値を創造する人材に育成する責任を背負っているということに他ならない。このような人材育成を実現するためには、これまでのような教科・科目で学ぶ学びのスタイルではなく、いろいろな教科を横断的に関連付けながら学ぶ学びのスタイルに変化させていく必要があると考える。従来の科目選択のような限定された教育課程では

これらの力量を身に付けることは困難であり、枠組みにとらわれず幅広く学ぶことができる履修システムが必要である。

本校は、これまで地域と協働した活動を行うなど、地域に根ざした学校として信頼を得てきた。この活動は継承しつつも、地方でも先端教育を学び、今までの価値観にとらわれず、想像力豊かな人づくりや劇的な変化を生み出すことができる人材育成に取り組み、土佐清水市の未来をけん引していく役割が求められている。

このような背景から、現在の普通科を、普通教育を主とする学科である学際領域学科へと改編し、時代の変化に対応する取組が必要であると判断した。

土佐清水市は、幕末期において、日本の国際化に向け尽力したジョン万次郎の生誕地である。日本人初の米国留学生であるジョン万次郎は、帰国後、日本の近代化にも大きく貢献した。その原動力は好奇心や探究心であり公益的態度に他ならない。ジョン万次郎を輩出した四国最南端の地にある高等学校で、21 世紀における地域や日本、世界を牽引する人物を育成する意義は大きく、「21 世紀のジョン・マン」を育成するためのカリキュラム開発を行う。

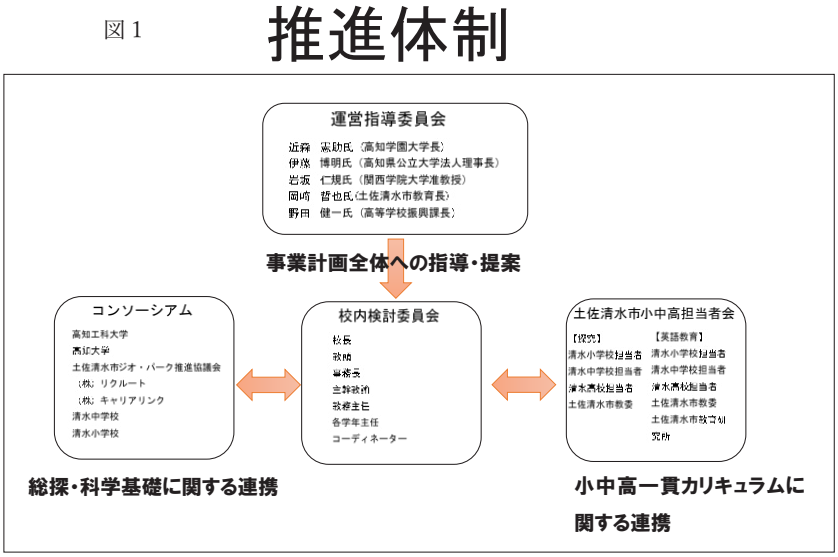
また、多様な他者と関わり、新たな価値を創造するために、グローバルな視点を育成する取組を推進する。地域や世界の様々な課題について関心を持ち、それらの実際を知り、原因を探る中で、自らの意見を持ち、他者に適切に伝えることができるような取組を推進する。

3　事業推進体制について

本事業の推進については、以下のように取り組む。（図１）

（１）校内検討委員会において基本的な事業案を協議する。

図１



（２）運営指導委員会において事業計画全体の指導及び助言を行う。

（３）コンソーシアムにおいて、総合的な探究の時間及び学校設定教科・科目（科学基礎）に関わり、学校と外部機関が連携した取組を実施する。

（４）土佐清水市小中高担当者会において、小中高一貫カリキュラムについて検討し、実践する。

（１）の校内検討委員会については、５月から２月まで 24 回開催した。（表１）目指す人材像の検討や事業の目的を確認し、カリキュラムの開発について継続的に協議した。カリキュラム開発については、主に「総合的な探究の時間」の見直し、「学校設定教科・科目」の内容検討、「英語教育プログラム」の内容検討に取り組んだ。

（２）の運営指導委員会については、第１回を 11 月に、第２回を２月に開催した。

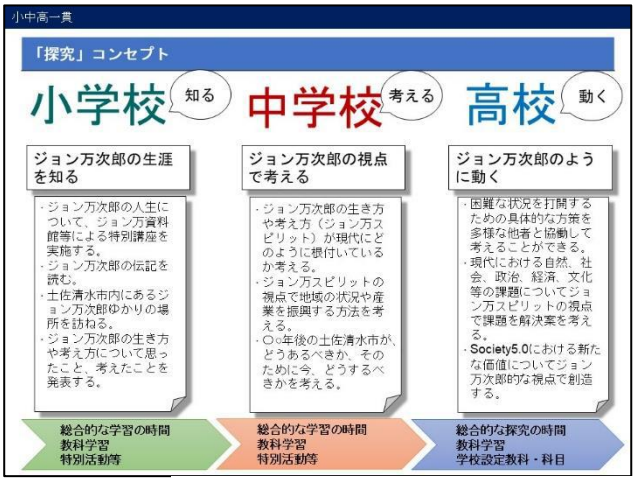
（３）のコンソーシアムについては、代表者会を３月に開催した。

表１

令和　４年度　校内検討委員会一覧　（令和５年２月末まで）

回	月日	内容等
1	5/2	事業の目的・概要等の確認　年間計画の確認
2	6/6	小中高担当者会について　学校設定科目・総探の検討
3	6/13	ＳＤＧｓをテーマとした取組案について
4	7/4	小中高担当者会報告　探究における「問い」について
5	7/27	事業の目的と目標について　ミネルバ大学方式について
6	8/1	学校設定教科検討のためのワークショップ
7	8/3	学校設定教科検討のためのワークショップ　教育課程案
8	8/25	ジョン万次郎をテーマとした取組について　２学期計画
9	8/29	設定科目及び総探の計画案について　２学期取組案について
10	9/9	２学期の取組について　運営指導委員会について
11	9/12	２学期の取組について　総探について
12	9/26	これまでの検討内に関わり課題の確認と今後の取組について
13	10/17	カリキュラム改革の事例について（キャリアリンクからの情報提供）
14	10/24	育成すべき資質・能力について　運営指導委員会について
15	11/21	運営指導委員会について　今後の取組について
16	11/28	カリキュラム開発について（キャリアリンクとの合同協議）
17	12/13	スクールポリシーについて　今後の取組について
18	12/19	学校設定教科について　学際について
19	1/16	先進校視察について　３学期の取組について
20	1/23	生徒の実態分析及び今後の取組について
21	1/30	運営指導委員会について　学校設定教科の学習について
22	2/6	今後の取組について（キャリアリンク及び市教委等との合同開催）
23	2/13	運営指導委員会について
24	2/27	１年間の振り返りについて　コンソーシアムについて

（４）の土佐清水市小中高担当者会については、６月に合同会を行い、その後は「探究担当」及び「英語教育担当」について適宜、分科会を行うようにした。



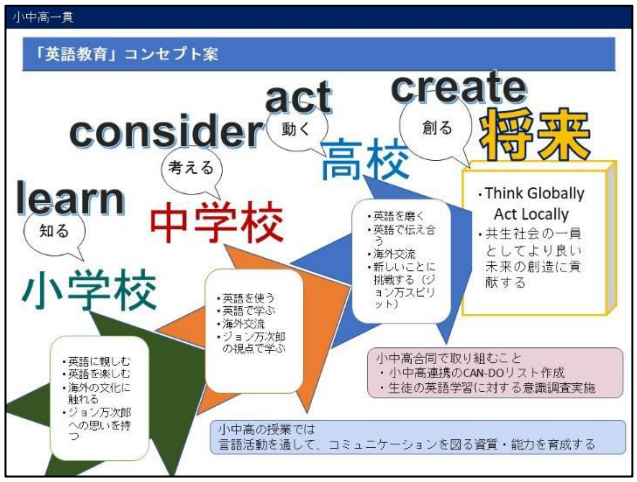


図２・３　小中高一貫教育　「探究」「英語教育」のコンセプト

4　具体的な実践について

令和４年度は、本校が育成を目指す生徒像の検討及びカリキュラム開発の方向性等について校内検討委員会を中心に継続的に協議を行った。カリキュラム検討の中で、実際の取組案が提案され、①「教科等横断的な視点での取組」、②「ＳＤＧｓへの理解を深める取組」、③「グローバル人材育成のための取組」を行った。（事例報告参照）

本年度の実践事例については、校内検討委員会での協議をもとに、令和４年度の各教科等における年間指導計画の中で、適宜実施した。それぞれの取組については取組の実施後に授業後の生徒の変容等を見取ることで成果と課題を確認した。

5　本年度の事業評価について

本事業に関わる、生徒の変容等を検証する方法として、三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティングによる「高校魅力化評価システム」の６項目を活用するようにした。本事業によって育成を目指す具体的な人材像として、「将来、グローバルに活躍したいという意欲を持った生徒」、「新たな価値（起業等を含む）を創造したいという意欲を持った生徒」、「社会に貢献しようとする意欲を持った生徒」の三つを設定し、６つの評価項目を指標として設定した。（表２）

表２

育成すべき人材像の確認（評価指標について）

高校魅力化評価システム（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング）

目標が達成された姿	評価項目	最終目標
将来、グローバルに活躍したいという意欲を持った生徒 自己と世界との関わりを実感することや国際的な課題解決の意欲を持っている生徒	日本や世界の課題の解決方法について考える	80%以上 ※肯定的回答
	国際社会の課題解決に貢献したい	
新たな価値（起業等を含む）を創造したいという意欲を持った生徒 日常的な学びを深め、新たな価値を創造しようとする生徒	まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	
	勉強したものを実際に応用してみる	
社会に貢献しようとする意欲を持った生徒 根拠に基づいた課題設定ができ、自信を持って改善に取り組もうとする生徒	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	
	私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	

表３

令和３年度及び４年度の評価について

高校魅力化評価システム（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング）　肯定的評価（%）

項　目	Ｒ３結果	Ｒ４結果	Ｒ４目標
日本や世界の課題の解決方法について考える	51.1	53.3	70以上
国際社会の課題解決に貢献したい	59.6	57.9	70以上
まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	56.4	57.0	70以上
勉強したものを実際に応用してみる	67.0	69.2	70以上
現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	68.1	66.4	70以上
私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	47.9	53.3	70以上

令和３年度と４年度の評価項目について比較すると、各項目において肯定的回答の割合が６項目中４項目で高まった。校内検討委員会等で育成すべき人材等を確認し、そのための取組案について検討する中で、指導方法の工夫や生徒の主体性育成を意識した取組が展開されたことが一因にあると考えられる。

一方で、それぞれの項目については、本年度の達成目標値を 70%以上に、最終的な達成目標値を 80%以上に設定しているが、本年度の達成値では 50～60%に留まっており、目標実現には課題が多く残っている。

今後は、本評価項目以外に、生徒の資質・能力をさまざまな場面で見取る工夫及び、評価方法（アンケート以外にも生徒の記述等の分析）の工夫と改善が求められる。

Ⅲ　令和４年度　事業の概要

１．事業の実績

（１）事業の実施日程

事業項目	実施日程										
	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
校内検討委員会	１回	２回	２回	４回	３回	２回	２回	２回	３回	３回	３回
運営指導委員会							１回			１回	
コンソーシアム代表者会											１回
小中高担当者会		１回					１回				

（２）事業の実績の説明

ア　カリキュラムの検討内容

本校生徒の基礎学力の定着状況について、「基礎力診断テスト」の結果から以下のように整理する。

①入学時にはＤ層が全体の半数程度存在しているが、２年２回目では 30～40％まで減少している。

②入学時にはＡ・Ｂ層は 10％程度であるが、２年２回目では 30％程度まで増加している。

以上の結果から、「中学校卒業時（義務教育段階）における基礎学力が未定着のまま高校に入学している」、「高校においてＤ層が減少していることから、基礎学力の定着が一部見られる」ことが考えられ、全体的な課題としては「基礎学力の定着が不十分である」ことが挙げられる。

また、各種のアンケート結果から、学ぶことに対する生徒の意識として、「学ぶことの意義や学び方」、「学ぶことと将来」、「学ぶことと地域や社会」に関わる項目の肯定的回答の割合が低く（表１）、「学ぶことの意味や価値を位置づけ、将来にわたって学び続けること」、「日本や世界の現状に目を向け、広い視野で自分や地域を見つめること」、「地域や世界の状況を的確に把握し、問題点を分析したり課題を解決しようとすること」について十分に身に付いていないことが推測できる。

表１

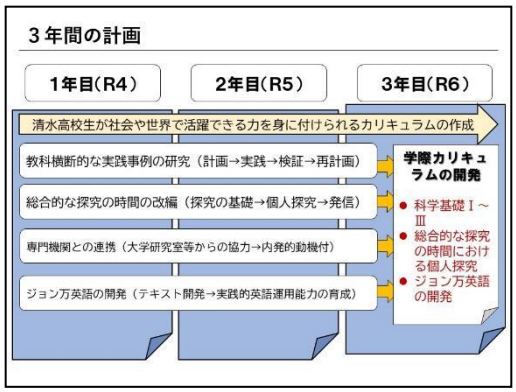
アンケート結果（令和２年～４年における１年生から３年生までの肯定的回答割合の平均）

高知県オリジナルアンケート、高校魅力化評価システム、学校評価アンケートにおける、肯定的回答の割合

「学ぶ」ことの意義や「学び方」	
私は毎日家庭学習をしている。	２６．１％
学習すること自体がおもしろいから勉強をしている。	２９．１％
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ。	４５．０％
私は計画的に学習に取り組んでいる。	５７．２％
「学ぶ」ことと「将来」	
私は自分の夢や目標に結びつくような良い所や得意なことを持っている。	６３．７％
私は将来の夢や目標を持っている。	７１．３％
私は高校卒業後の進路を決めている。	７５．６％
「学ぶ」ことと地域や社会	
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している。	３０．７％
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う。	４５．７％
将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい。	４７．１％

これらの資質・能力を育成するために、「目標を自らで設定し、計画を作成し、粘り強く、着実にやり遂げること」、「何事にも知的好奇心を持ち、視野を広げ、科学的な視点から事象を捉えること」、「協働的な視点を持ち、利他の精神を育み、社会や世界に貢献すること」といったジョン万次郎の生き方・考え方を、生徒が「学びの指針」とするカリキュラムを開発することを考えている。

図１



３年間の事業計画については、「清水高校生が社会や世界で活躍できる力を身に付けられるカリキュラムの作成」を目指し、４つの具体的な取組について協議を行った（図１）。令和４年度については、生徒の状況を分析しながら、目指す生徒像を検討し、さまざまな外部機関と連携したカリキュラムの内容や実施方法等について検討した。

カリキュラムの検討の詳細について以下のように記す。

（ア）校内検討委員会（以下、検討委員会）での協議

事業採択後、校内ではカリキュラム開発と具体的な実践例を提案するために校内検討委員会を組織し、原則的に週に１回程度の協議を継続的に行なった。校内検討委員の構成は表２の通りである。

表２　校内検討委員の構成

職名等	役割等
校長	全体総括
教頭	総括責任者 会議の進行 会議記録作成
事務長	予算書の作成 決算書の作成
主幹教諭	探究カリキュラム担当 学校設定教科・科目担当 総合的な探究の時間担当
教務主任	学校設定教科・科目担当 総合的な探究の時間担当
第１学年主任	探究カリキュラム担当 総合的な探究の時間担当
第２学年主任	英語教育プログラ担当 総合的な探究の時間担当
第３学年主任	探究カリキュラム担当 総合的な探究の時間担当
コーディネーター	コーディネート業務全般担当 英語教育プログラム担当

検討委員会では、主に「学校設定教科・科目（科学基礎）の内容等の検討」、「総合的な探究の時間のカリキュラム検討」、「英語教育プログラムの内容検討」、「教科等横断的な視点での検討」の４点について検討を行なった。

「学校設定教科・科目（科学基礎）の内容等の検討」については、検討委員会で表３のように整理した。

「総合的な探究の時間のカリキュラム検討」については、現在の年間計画を見直し、科学基礎及び教科において身に付けた資質・能力を、地域や社会の実際の場においてさらに探究を深め、課題解決に向けた提案を積極的に行い、社会や世界に貢献しようとする態度の育成にも取り組む。

探究の方法としては、１年次では「科学

基礎Ⅰ」において学習したSDGｓのターゲットから一つを選択し、個人あるいはグループで、地域や日本、世界の実際について調査・分析を行う。その際には、コンソーシアムと連携し、より専門的な視点での探究を行うようにする。

２年次では、それらをより高度に分析するため、最先端のデジタル・テクノロジーと関わる機会を設け、専門的な視点で探究を深める。また、アメリカあるいは台湾の高校生とのオンライン交流等の場面を年間３～４回程度設定し、探究について意見交換を行う。また海外高校生の見方や考え方等にも触れる機会を積極的に設けることで、グローバルな視点を育成するようにする。

表３

学校設定教科・科目「科学基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び各教科における学びについて

	視点	具体的な方法等
1	学際的な視点で、自然科学、社会科学、人文科学に関わる題材を取り扱うようにする。 教科横断的な視点で、複数教科が教材研究及び教材開発を行い、実践例を作成する。	・コンソーシアムとしてリクルートと連携し、大学等における学際的な学びを参考に、カリキュラム開発を行う。 ・複数教科での教材開発について継続的に検討を行い、実践事例を作成する。
2	１年次の「科学基礎Ⅰ」の導入では、今後の探究活動の基礎となる探究の考え方や手法等について着実に学ぶ「探究の型」の習得を目指す。	・学年で共通したテキストを活用する。 ・コンソーシアムと連携し、５回程度の講座を行う。
3	SDGｓに関わり、１７のターゲットから３ターゲット程度を絞り込み、地域をフィールドに学習活動に取り組む計画とする。特に、土佐清水市の地域的な特色を踏まえ「（ターゲット）14 海の豊かさを守ろう」は探究の材料として取り上げるようにする。	・コンソーシアムとして、土佐清水市ジオパーク推進協議会等と連携し、ワークショップ及びフィールドワーク等を行う。
4	１年次では「知る」、２年次では「深める」、３年次では「学びを地域や社会、世界と結びつける」をテーマとし、系統的にカリキュラムを構築する。 また、これらを達成させるために、１年次では「知り方、学び方、深め方の手法を学ぶ」、２年次では「大学等の専門機関と連携し、より深く探究する」、３年次「アウトプットの機会を設定し、学びを発信する」ことを探究の進め方とする	・系統的なカリキュラム作成のため、コンソーシアムとして、キャリアリンクと連携し、３年間の系統的なカリキュラム案を作成する。 ・小中高一貫のコアカリキュラムについて、土佐清水市教育委員会、清水小学校、清水中学校と検討会を年間通じて行う。また、検討会ではキャリアリンクから適宜アドバイスを受けるようにする。
5	生徒自身が「問い」を自らで設定することを目標とする。そのために、日々の学びの中で「問い」を立てられるようなトレーニングを行う。（例：各教科の学びをPBLの視点で指導計画を作成し、教科においても探究を主眼として取り組むようにする）	・教科において探究的な視点での指導計画を作成するための校内研修会を行う。 ・コンソーシアムとして高知大学地域協働学部と連携し、探究的な学びについて具体的な事例を作成する。 ・各教科の年間指導計画を見直す。

３年次では、これまでの探究を総括し、SDGｓのターゲットについて、独自の視点での分析及び課題解決への具体的な方法を提案し、ポスターセッション動画等をホームページに掲載するなど広く世界に向けて発信する。

「英語教育プログラムの内容検討」については、土佐清水市出身で、幕末期にアメリカ合衆国に渡り、先進的な技術や文化を日本に持ち込み、日本の近代化の足がかりとなった中浜万次郎（以下　ジョン万次郎）について、彼の生涯及び生き方や考え方について触れた独自テキストを作成する。また、そのテキストの内容を読み深めながら、ジョン万次郎が様々な困難に直面した際、どのようなことを考え、どのような行動をしたのか等について「問い」を設定し、それらを考え、英語で表現する力を身に付ける。それらの「問い」については、様々な困難が混在する現代のグローバル社会においても通底する概念を身に付けさせることとし、より深く探究できるようにすることとした。

「教科等横断的な視点での検討」については、高校３年生「物理（選択科目）」と「美術」において試行的な実践を行った。物理選択生３名が単元「光」におい

て、紫外線の電磁波について学習し、「色彩」について実験を通じて検証する一つの視点として、美術における「造形の働き」としての「色彩」と関連させる教科等横断的な授業として実践した。具体的には写真プリント技法の一つである「サイアノタイプ」を体験し、その化学反応や光の波長との関係について探究する単元づくりに挑戦した。

授業実践では、理科・美術科の担当教員が授業案を検討し、独自の教材づくりに努めた。特に、生徒が自らで疑問を持ち、仮説を立てながら実験を通じて検証する探究的な過程を重視し、「色」について多面的なアプローチで理解することができた。美術においては「造形の要素」を科学的に理解するきっかけとなった。

一方で、複数教科の担当者が授業案を検討するためには、時間的な確保が必要である。また、その中で、教科等横断的な取組によって生徒のどのような資質・能力を育成するのかを明確にしたうえで、計画的に取り組む必要がある。指導方法の改善も一体化した取組が必要である。

検討委員会における協議の成果として、「(委員は) 探究や学際的な学び等、今後取り組むべき教育課題について、正面から向き合いながら協議を重ね、何を目指していくべきか、何ができるかを考えることができた」、「さまざまな視点から生徒の育成について考え、学ぶ機会となった。これほど学校運営の視点で生徒の姿を考えることは今までなかったが、自らの視野を広げることができた」等の意見があった。課題としては、「議論が検討委員にとどまり、他の教員が参加できなかった。学校全体に広げていくことができていない」、「内容が多岐にわたりすぎ、議論が散漫になることがあった。時に、結論にたどり着かないようなことがあった」、「他の教員の賛同を得ながら推進していくことができていない」等が見られた。次年度については、①検討委員会を核として、「学校設定教科・科目について検討するワーキンググループ (以下 WG)」、「総合的な探究の時間の見直しについて検討する WG」、「英語教育プログラムの内容について検討する WG」を組織し、教職員全体で協議し、事例研究に取り組める体制を構築する必要がある。

また、教科等横断的な実践やＳＤＧｓを題材とした指導計画を考える中で、目指す生徒像に必要とされる資質・能力の育成について検討するなど理解を深め、事例研究を行う必要がある。特に、学習評価についての事例研究等を行いながら、学校全体として授業改善の視点で計画的に取り組みたい。

（イ）　運営指導委員会における協議

a　運営指導委員会の体制

所属等	氏名	主な実績
関西学院大学准教授	岩坂　二規	自然保護から環境教育・ESD・SDGs のための教育と科学研究の発展を目的とする SDGs・生物多様性研究センターのセンター長。また、アメリカ研究における

		学際研究の手法を現代的なテーマに広く用いて、開発教育、グローバル教育などの分野に応用しながら、教育の課題について研究を行っている。
高知県公立大学法人理事長	伊藤　博明	高知県教育委員会前教育長。学校の組織力を高めながら、教員同士がチームを組んで主体的に学び合う「チーム学校」を推進。また、地域との連携・協働やデジタル社会に向けた教育にも力を入れてきた。
高知学園大学学長	近森　憲助	鳴門教育大学名誉教授。研究対象は、国際教育開発、環境教育をはじめ、持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）やＳＤＧｓまで幅広い。高知西高校のＳＧＨ事業の運営指導委員を務める。
土佐清水市教育委員会	岡﨑　哲也	土佐清水市教育行政関係者
高知県教育委員会	長岡　幹泰	管理機関

b　運営指導委員会が取り組む内容

本事業に対する目的及び目標設定の妥当性を評価し、必要に応じて改善の視点を示す。また、事業開始後の進捗状況の管理及び改善についての指導・助言を実施する。さらに、高等学校における学際的な学びを追究する教育課程の在り方及び、社会に開かれた教育課程を実現するための学校と企業、大学、地域等との連携について具体的な助言を行う。学校は、これらの指導・助言に基づき、計画の修正、再考を行いながら、マネジメント・サイクルを実施する。

c　第１回運営指導委員会での協議内容等

日時：令和４年 11 月７日（月）13:00～15:15

場所：高知県立清水高等学校　会議室

出席：（運営指導委員）岩坂委員、伊藤委員、近森委員、岡﨑委員

（学校）校長　市原、教頭　田中、事務長　岡本、主幹教諭　南、

教諭　山﨑　小松　武政　小島、コーディネーター　谷

（高等学校振興課）課長　野田、チーフ　中越、指導主事　仁木

日程：開会行事（13:00～13:25）

・教育委員会挨拶

・学校長挨拶

・委員紹介
・会長、副会長の選出（近森委員が会長に、岡﨑委員が副会長に選出）
・会長、副会長挨拶
授業参観（13:25～13:55）
令和４年度新時代に対応した高等学校改革推進事業の実施計画についての説明及び協議（13:55～15:10）
協議題「ＳＤＧｓの視点で考える学際的な学びについて」
主な協議内容
・ジョン万次郎の人物、特質（我慢強さや、吸収力、コミュニケーション能力等の資質）を核に、フレームワークを作成することが必要である。
・ジョン万次郎の気質や能力について具体的にイメージし、各教科における学びにつなげる。
・「３年間の取組計画」、「ジョン万次郎カリキュラム」、「評価」について３点を整理し、整合性を持たせる必要がある。計画の再考が必要である。
・ジオパークとのつながりを持って、地学、地理との連携を考えてはどうか。
・「意図的な行為」、「目的をもって行う行為」について考えさせる（エージェンシーの視点）。
・現状や課題の深掘りが必要である。
・事業の目的や具体的な計画について、中学生や地域の方々にさらに分かりやすく説明する必要がある。
・文理融合では何を目指すのか、どのような姿を目指すのかを、到達目標を明確にしたうえで示す必要がある。
・生徒達の興味・関心を深め、学びを深めるために最先端科学を学ぶことになる。
・英語教育の推進については、目的は多様性を知り国際的な視野を広げることである（国際交流が目的ではない）。
・コンソーシアムについては土佐清水市のニーズと合致しているかを確認する。
・目的を明確にすることで到達点が明確になる。
・数値目標の共有化が必要である。
・評価指標の 70%以上についても適切かどうかの検討をする。
・生徒の主体性を育成するためには教員も主体的な取組が必要である。
・ジョン万次郎プログラムについては、教員がそれぞれの専門性を生かして内容や取組を考える必要がある。

・どのような人間像を描き、どのような役割を果たそうとするのかというエージェンシーの考え方が必要である。
・生徒に、学んだことが自分にとってどのような意味があるのかを考える「メタ学力」の視点を持つ。

閉会行事（15:10～15:15）

d　第２回運営指導委員会での協議内容等

日時：令和５年２月 20 日（月）13:30～15:30

場所：高知県立清水高等学校　会議室

出席：（運営指導委員）岩坂委員（オンライン）、伊藤委員、近森委員、岡﨑委員

（学校）校長　市原、教頭　田中、事務長　岡本、主幹教諭　南
教諭　山﨑　小松　武政　小島　金井、
コーディネーター　谷

（高等学校振興課）課長　野田、チーフ　中越、指導主事　仁木

日程：開会行事（13:30～13:35）

・教育委員会挨拶
・学校長挨拶

令和４年度の取組について及び次年度以降の取組について（13:35～13:55）

協議題「生徒の探究を深めるための問いの設定について」

主な協議内容：

・生徒が自らで「問い」を持つことは難しい。自ら考えたくなるような課題設定をするために、小中高で方向性をあわせて取り組んでいくことが必要である。
・「問い」を立てる目的は何か、何を求めるかを明確にする必要がある。一人一人の生徒が、自分が何を学んでいるか、何につながるかを考えられるようにすればよい。
・生徒一人一人の思いを出発点とし、そこから探究を始める視点が必要である。教員は生徒に伴走しなければならない。
・探究は、正解を求めるのではなく、そのプロセスを大切にしなければならない。容易に答えにたどり着かないような大きなテーマに取り組ませてはどうか。
・生徒自身が、自分の学力状況について、課題としてとらえ、そのことを探究することも考えてはどうか。
・ジョン万次郎について、もう少し踏み込んでみたらどうか。なぜジョン万次郎を探究するのかについてしっかりと考えさせてみてはどうか。

・生徒が、探究的な課題について、他人事としてしかとらえられないのは、大人の「問い方」にも問題があるのではないか。自分で考えるという余地のある問いかけが必要である。
・ジョン万次郎がゴールになってはいけない。あくまでもシンボルである。生徒一人一人が「私のジョン万次郎」を、個々の経験の中で定義づけられるようにしたい。
・さまざまな学びの場面で、生徒と教員との間に信頼関係が生まれることで学びは深まる。結果として学力も向上する。探究を行うことによる教育上の意味のようなことも考えてもらいたい。生徒のエージェンシーにもつながるのではないか。
・一人一人の生徒が、自分とジョン万次郎との関係性を考えるような探究を考えてみてはどうか。小学校、中学校でジョン万次郎を学び、高校では自分にとってジョン万次郎はどのような意味があるのかを考えることもできると思う。
・評価項目間の関係性は適切か。それぞれの関係性をもう一度確認する必要があると思う。（項目について）個別の評価だけでは全体が見えないことになる。具体的なイメージを持つためには「ストーリー」が必要である。
・評価の意味について考えたい。一人一人の高校生にとって、評価がどのような意味を持っているのかについて吟味する機会としたい。評価を目的とせず、今後の成長につなげていくようにしたい。

閉会行事（15:10～15:15）

運営指導委員会における協議及び指導についての成果として、「地域をフィールドとしたカリキュラム開発が学際につながるという視点が示され、大変参考になった。」、「ジョン万次郎を中心に考える視点が見えてきた。高校３年間の学びで生徒一人一人がどのように成長できるか、また成長した姿とはどのようなものかを具体的にイメージすることがカリキュラム開発につながることがわかった」、「専門的な視点での協議内容は大変参考になった。このようなハイ・レベルな協議内容に携わることも意義が深かった」等の意見が見られた。課題としては「（委員会で協議された）目指す生徒像の育成について、校内での協議を具体的にしなければならないと感じた」、「概論的な内容を、実践の場で具体的にどのように作り上げていくかを考えなければならないと感じた」等の意見が見られた。次年度については、校内における実践事例を積み上げ、目指す生徒像の実現と評価について報告し、運営指導委員会からの助言及び指導を得られるようにしたい。

（ウ）小中高担当者会での協議

清水高等学校での学際的な学びを推進することについて、土佐清水市の小学校及び中学校と連携し、学びの質を高めることを実現させるために、「探究」と「英語教育」においてそれぞれの校種の担当者による担当者会を組織した。担当者会では、土佐清水市における人材育成について地域コンソーシアム等で共有された人材像等、理念や実施計画を共有し、小中高一貫の探究プログラムの作成を目指すこととした。

６月には「探究」及び「英語教育プログラム」の合同担当者会を開催し、それぞれの校種における取組や年間計画、また小中高一貫したカリキュラムの作成等について意見交換を行なった。

英語教育担当者会では、小中高一貫した英語教育プログラムを開発するために、６月の担当者会で情報共有等を行なった後、その後はオンライン等での意見交流を適宜行なった。また、11 月には、清水高等学校において、１年生の「英語コミュニケーションⅠ」の公開授業を開催し、生徒がタブレット端末を活用し、自分の意見や考え方を積極的に表現する学習について、小学校及び中学校の担当者が多数参加する中、授業実践を行なった。また、その後の研究協議では、小学校英語の実際において、専科教員が不足する状況の中で、中高の教員が教材研究等のサポートを行うことや、中学校における授業づくりを参考に、今後の英語の教科指導において重点化する内容等の検討も行なった。

ジョン万次郎に関わる、英語教育プログラムの例として、ジョン万次郎を題材とした英語劇や英語スピーチコンテスト等を検討していくこととした。

小中高の教員が計画や事例を共有する機会を設定できたことが本年度の成果である。一方で、スケジュール調整等が煩雑であり、定期的に協議を行うことができなかったことで、年間計画や指導計画等の具体的な取組ができなかったことが課題である。次年度から、担当者会の事務局機能を強化し、年間計画を適切に作成し、協議及び事例研究の場を設定するようにしたい。

（エ）先進校視察

本校のカリキュラム開発を推進するため、県外の先進校を視察し、目的や推進体制、コーディネーターの活用等について直接的に研修する機会を設けた。今回は令和４年 12 月に実施した視察を報告する。

日　程：令和４年 12 月 26 日（月）和歌山県立新宮高等学校、和歌山県立串本古座高等学校

令和４年 12 月 27 日（火）和歌山県立橋本高等学校

＊３校とも令和４年度新時代に対応した高等学校改革推進事業指定校

委　員：清水高等学校　主幹教諭　南、教諭　武政　小松（３名）

内容等：「協議事項等」

- 学校説明
- 事業の取組状況等
- 具体的なカリキュラム開発等
- コーディネーターの活用
- 教科等横断的な取組等

「参考になった事項等」

- 総合的な探究の時間や学校設定教科・科目のスタートは地域を題材としており、そこからグローバルに向けて視野を広げていこうとするものであった。
- 組織体制については、役割分担を分掌に位置づけて取組が進められている。
- 教科等横断的な学びについては、各校とも様々な視点で実践がなされていた。
- 学校設定教科・科目について、地域や学校の特色を生かした内容となっていた。また名称についても工夫されていた。
- 教科等横断的な授業づくりにおける協議や実践については、教職員が楽しみながら協働的に取り組むことが重視されていた。
- 個々の教職員の得意分野を生かして考えられていた。
- コーディネーターの強みを生かした事業展開を工夫している。特に関係機関との連携については一任していて取り組んでいた。

串本古座高等学校

橋本高等学校

新宮高等学校

「本校に導入したい内容等」

- 総合的な探究の時間及び学校設定教科・科目のカリキュラム開発では、地域を題材とし、教科等横断的な視点で取り組む視点が示されていた。地域から世界に目を向けることでグローバル人材の育成につながっていることが理解できた。地域を学びのフィールドとした多様な教育資源を活用しカリ

キュラム開発に生かしたい。

- 各校とも推進組織を整備しており、校務分掌での位置づけが明確であった。本校の組織編成について大変参考になった。本校においても、次年度の組織編成の参考としたい。
- ビジョンの決定及び進捗状況の管理を行う校内組織が必要である。また、全校で取り組める体制と連携しながら事業を推進する視点を持つ必要性を感じた。次年度の本校における検討委員会の見直しと、組織編成の参考としたい。
- コーディネーターの席を職員室内に配置し、常に連携できるようにする。
- コーディネーターが直接生徒を指導する場面を設定する。

イ　コーディネーターの配置および活動内容

本事業におけるコーディネーターとして、県立高等学校副校長を務めた後、県教育委員会事務局高等学校課において授業改善アドバイザーとして、県内県立高等学校の指導方法や指導計画の改善について多くの学校で助言等を行いながら授業改善の啓発等に取り組んでいる人材を配置した。また、県内における英語教育の第一人者でもあり、本校が学際領域の学びにおいて実現を目指す英語教育プログラムの開発において、手腕を発揮してもらうことを期待している。

６月に配置が決定した後は、原則的に週１回の検討委員会への出席と助言等を主な用務とし、その他にも、運営指導委員会、小中高担当者会、校内研修会等への出席など事業における全般的な取組に出席している。

今年度におけるコーディネーターの主な業務内容を以下に記す。

（ア）英語教育プログラムの開発

学校設定科目として「ジョンマン英語Ⅰ～Ⅲ（仮称）」（表４参照）の設定を目指し、ジョン万次郎の生涯及び生き方や考え方を記したテキストを開発し、授業で活用することを計画している。コーディネーターについては、テキスト開発を監修し、「The Destiny of a Castaway JOHN MANJIRO」をベースにした独自テキストの開発業務を担当している。テキスト案では、ジョン万次郎の全生涯を網羅的に取り扱うのではなく、彼の生き方や考え方、また行動の意図や意味について考えるための「問い」を設定し、思考を深められるような構成としている。生徒は、ジョンマン英語を学ぶ中で、ジョン万次郎があらゆる困難に直面しながらも、問題や課題を具に分析し、原因や意味を探り、目的や目標を設定し、解決に向けた計画を作成し、着実に実行していく姿、また、それらの行動化において、必ず他者との協働的な視点を持つことや、他者や社会に貢献しようとする公益的な態度等を学ぶことで「あきらめない」、「投げ出さない」、「人の役に立つ」という「ジョン万スピリット」に触れることとなり、今後、生徒たちが VUCA の時代を生きる現代人の羅針盤となる学びの実現を目指す。

表4　（学校設定科目）ジョンマン英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（案）

<table>
<tr><td>目的</td><td colspan="2">英語により知り得た情報に関して、クリティカルマインドを発揮して、その背景や考えを深く探究し、多角的に思考し発信する資質・能力を育成することを目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">目標</td><td colspan="2">(1) ジョン万次郎の経験を素材として、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉える技能を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">(2) 英語で書かれた内容の背景について、教科横断的な視点で掘り下げ、探究することにより、より深く理解するとともに、手段として英語を利用する態度を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">(3) ジョン万次郎の体験と挑戦精神を学ぶ活動を通して、国際的かつ社会的な態度を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">(4) 学んだ内容に関して、他者と情報や意見を交換することにより、より幅広い視野を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="2">(5) 学び深めた内容に関して、情報や考えなどを論理的に整理して発信する能力を身に付ける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">内容</td><td>ジョンマン英語Ⅰ</td><td>「The Destiny of a Castaway JOHN MANJIRO」から、主にジョン万次郎の難破からアメリカでの生活のうち数ヵ所を扱う。
上記の目標を達成するために、多くの支援を与えて、英語で主に「読む」「話す」活動を行い、英語と日本語で「探究する」活動を組み込む。</td></tr>
<tr><td>ジョンマン英語Ⅱ</td><td>「The Destiny of a Castaway JOHN MANJIRO」から、主にジョン万次郎の日本帰国後の生活のうち数ヵ所を扱う。
上記の目標を達成するために、一定の支援を与えて、英語で主に「読む」「話す」「書く」活動を行い、英語と日本語で「探究する」活動を組み込む。また、必要に応じて「聞く」活動を行う。</td></tr>
<tr><td>ジョンマン英語Ⅲ</td><td>ジョンマン英語Ⅰ、Ⅱで学習した内容をもとに、個人でテーマを設定して、探究を深め、社会的で論理的なエッセイを書く。</td></tr>
</table>

（イ）学際領域におけるカリキュラム検討

本校が目指す学際領域におけるカリキュラム構成等について、具体的な内容や学習方法等について、案を作成したり、検討委員会等で助言を行ったりする。コーディネーターがかつて、高知県内において初となる国際バカロレア認定校（ＭＹＰ及びＤＰ）における全般的な業務の指揮を執ることや、ＳＧＨ校での具体的な実践を管理していた経験を生かし、生徒の資質・能力を育成するための教育計画の在り方や具体的な教材づくり等について、積極的に情報提供及び指導計画の作成に対して助言を行っている。

本校が目指す人材である「21 世紀のジョン万次郎」について、ジョン万次郎の生き方や考え方をベースにした英語教材づくりに、コーディネーターが大きく寄与したことが成果である。また、その作成に当たり、土佐清水市教育委員会を通じて、資料を取り寄せたり、参考文献を調査したりするような外部との連携について一任することができた。一方で、内容が英語教育に多くの比重が大きく、地域や大学等との連携について一層深めていく必要がある。次年度は、さらに多くの機関との連携について、コーディネーターを中心として進めていきたいと考える。

Ⅳ　カリキュラム開発について

カリキュラム開発について

育成すべき（目指すべき）人材像	課題（生徒の実態）	ジョン万スピリット	達成された姿（イメージ）	魅力化評価システムでの評価項目
自然科学、社会科学、人文科学の各分野について、横断的に学び専門性にとらわれない柔軟な思考を身に付けている。	「学ぶ」ことの意味や価値を位置づけ、将来にわたって学び続けることができていない	目標を自らで設定し、計画を作成し、粘り強く、着実にやり遂げた	将来、グローバルに活躍したいという意欲を持った生徒	日本や世界の課題の解決方法にいて考える。【80%以上】 国際社会の課題解決に貢献したい。【80%以上】
課題や目的を自ら設定し、国際的な視野で問題を解決しようとする態度を身に付けている。	日本や世界の現状に目を向け、広い視野で自分や地域を見つめることができていない	何事にも知的好奇心を持ち、視野を広げ、科学的な視点から事象をとらえた	新たな価値（起業等を含む）を創造したいという意欲を持った生徒	まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい。【80%以上】 勉強したものを実際に応用してみる。【80%以上】
多様な他者と協働して新たな価値を創造する力を身に付けている。	地域や社会の状況を的確に把握し、問題点を分析したり課題を解決しようとすることができていない	協働的な視点を持ち、利他の精神を育み、社会や世界に貢献した	社会に貢献しようとする意欲を持った生徒	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる。【80%以上】 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない。【80%以上】

目標と取組案			３年間の計画		
目標	具体的な取組案	コンソーシアム連携	1年目（令和4年度）	2年目（令和5年度）	3年目（令和6年度）
特定の分野に偏らない学びを実現させるため、文理融合した教科横断的なカリキュラムを開発する。	文系や理系といった科目選択のパターンを設けず、生徒の興味・関心（自ら設定した課題）に応じた科目選択が可能なカリキュラムを編成する。 教科横断的な視点を持った授業改善を校内研修として実施する。	・高知工科大学 先端科学の実際 ＤＸの実際 科学的想像力 ・高知大学 地域協働活動 海洋科学 フィールドワーク ・土佐清水市ジオパーク推進協議会 土佐清水の地形 土佐清水の自然環境 土佐清水の文化・生活・産業 ・リクルート 学際カリキュラムの概念 ミネルバ的手法 英語教育プログラム ・清水小、清水中、キャリアリンク ジョン万コアカリキュラム 探究カリキュラム 英語教育プログラム	清水高校生が社会や世界で活躍できる力を身に付けられるカリキュラムの作成 教科横断的な実践事例の研究（計画→実践→検証→再計画） 総合的な探究の時間の改編（探究の基礎→個人探究→発信） 専門機関との連携（大学研究室等からの協力→内発的動機付） ジョン万英語の開発（テキスト開発→実践的英語運用能力の育成）		学際カリキュラムの開発 ● 科学基礎Ⅰ～Ⅲ ● 総合的な探究の時間における個人探究 ● ジョン万英語の開発
最先端の科学を学ぶため、自然科学・社会科学・人文科学の各分野について、大学、研究機関、官公庁、民間企業等と連携する。	生徒のSDGsへの興味・関心を高め、創造力向上に寄与するため、SDGsに対する取組について企業関係者等の講演を聴いたり、大学等の研究に触れる機会を設けたりする。（事前・事後学習を含む）				
国際的な視野を身に付けるために英語教育を充実し、国際交流を促進する。	国内外の多様性を養うため、県内外及び海外の高校生等との意見交換（ディベート）等を行う。 外部コンテストやフォーラム等に参加し、スピーチやディスカッション等の経験を多く積む。				
コンソーシアムと連携し、学校内外が一体化した教育活動を行うことで、社会に開かれた教育課程を実現する。	総合的な探究の時間や科学基礎（学校設定科目）においては、土佐清水市の地域の特色（ジオ・パークや海流等の特徴的な環境を含む）や課題、SDGsに関する取組を、学校外の様々な機関と連携し、解決・提案ができるカリキュラムを実現する。				

Ⅴ　実践報告Ⅰ

「教科等横断型学習～サイアノタイプ（理科×美術）～」

1　取組の目的

理科（物理、化学）で学習した内容が、どのように社会で応用されてきたかを生徒が知り学びを深めるために、美術（サイアノタイプ）と教科等横断型の学習を行った。

2　取組計画

（1）教科・科目：理科・物理

（2）対象生徒：３年生物理選択者　３名

（3）担当教員：理科教員、美術教員

（4）概要：サイアノタイプの体験、論文内容から自ら問いを立て、個人探究

3　実施時期

９月～12 月

４か月間取り組んだ内容を下表に示す。

	内容
９月	サイアノタイプの体験、鉄イオンの検出反応の実験、論文を活用した学習
10 月	学習内容の中間発表、中学生との交流授業、個人探究開始
11 月	個人探究のための実験
12 月	探究発表会（公開授業、中高弁論大会）

4　実践内容（取組の実際）

◯９月（体験、学習）

サイアノタイプを生徒たちに体験させ、昔の写真のプリント技法を体験した。その後、化学の鉄イオンの検出反応の実験を行い、サイアノタイプの反応につながる知識・技能を身につけた。また、サイアノタイプの詳細な反応については、Google Scholar を活用し、論文から知識を取り入れた。

生徒のサイアノタイプ体験の様子

◯10、11 月（個人探究）

論文中で、生徒それぞれがサイアノタイプについて興味を持った視点をあげさせて、

それぞれを 10 月初旬に中間発表で報告した。中間発表では、6 名の教員の参加もあり、探究を行っていくためのアドバイスもいただいた。中間発表後、反応に用いる試薬の検討や反応に関係する波長域など具体的な探究テーマが決定し、自ら問いを立て実験を行う個人探究を行った。

中間発表の様子

生徒ごとの探究テーマ

〇12 月（個人探究発表会）

個人探究の発表会を 12 月に授業の中で行った。その発表会では 4 名の教員が参加し、生徒たちはこれまでの探究成果をしっかり発表することができた。発表後の質疑応答でも、実験結果についての考察なども自身の言葉で表現することができていた。探究開始以前と比べると、説明の仕方についてまだまだ課題も残るが、結果を元に根拠を持った説明ができるようになったと感じた。12 月下旬には、中高生弁論大会にて、これまでの探究の一部を土佐清水市内の中高生全員に発表した。

個人探究発表会の様子

中高生弁論大会での発表の様子

〇個人探究発表会に参加した教員の発表生徒それぞれに向けた感想等（一部抜粋）

・落ち着いて発表できていました。発表を聞いてくれる対象者を意識して、資料や発表内容を構成(作成)すると、より素晴らしい発表になります。頑張ってください！

・クエン酸、アンモニアの量を変えて、反応速度を変える実験してみてはどうだろうか？
・実験の結果が明確で分かりやすかった、とてもわかりやすく楽しい実験だった。
・わかりやすい発表でした。内容が自分のものになっているからです。探究の広がりが得られる内容でしたので更に追究してください。
・夕焼けやトンネルのライト、オレンジっぽいのはなぜか知ってますか？光の波長、、、色々おもしろいですね！
・スライドがとても分かりやすく作られていました。
・着目点は面白いものでした。質問に対しては答えれるように掲示した資料やデータについてはしっかり理解しておきましょう。

生徒１の作成資料

個人探究の内容流れ（化学分野）

サイアノタイプを行った

↓

サイアタイプの化学反応を調べた

↓

なぜクエン酸鉄(III)アンモニウムなのか？

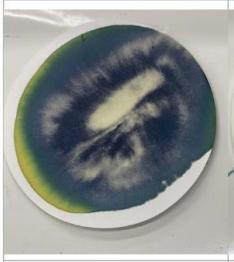
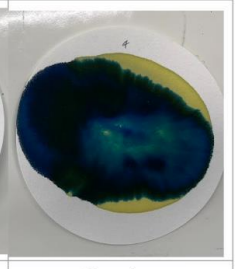
↓

クエン酸が何か影響をしている？

↓

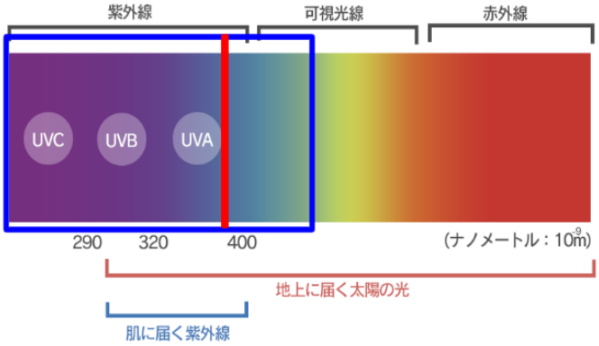
構成する成分を調整し対照実験を行った

日光に当て露光

①鉄(III)イオン ＋クエン酸 ＋アンモニア	②鉄(III)イオン ＋アンモニア	③鉄(III)イオン ＋クエン酸	④鉄(III)イオンのみ
			
濃い青	茶色　　変化なし	濃い青	かなり濃い青

生徒２の作成資料

個人探究の内容（物理分野）

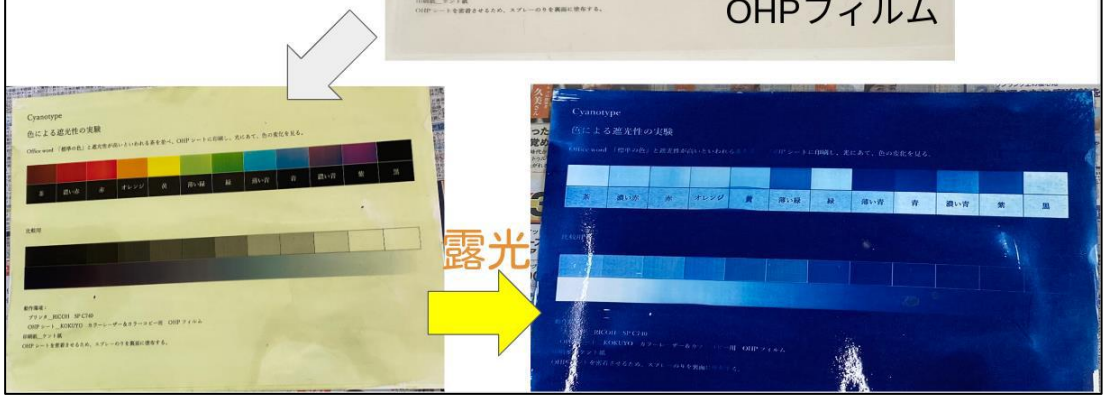


～問い～

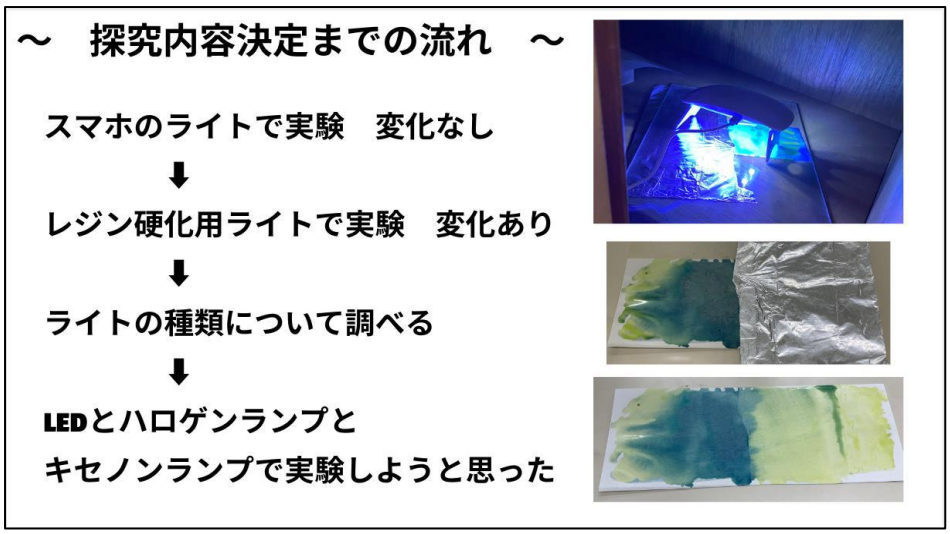
なぜ太陽光が有効か？

・サイアノタイプの実験で、太陽光の影響でどのような変化が起こったのか理解する

それぞれの色の遮光性の比較



生徒３の作成資料



５　生徒の変容

〇個人探究発表会を終えて、生徒の感想（教員のアドバイスも受けて）

生徒１	先生からの意見にもあったように、資料作成が発表を聞く人にわかりやすく作れたら、もっと良かったと思った。発表をして、先生からのコメントで新しい気づきとかもあった。資料作成とか発表とか、すごくいい練習になった。
生徒２	先生たちからシンプルで分かりやすかったといってもらえていたのでスライドのまとめ方とかは（理科教員の補助もあったが、）構成的にはあんな感じでいいと思った。話す時に声量は意識したけど、話のスピードがたまに早かったり言葉に詰まったりしてしまった。言葉遣いにも気をつける。

生徒３	先生からの質問は覚悟していたけど、いざ聞かれるとどうやって説明したら分かりやすいとか分からなかった。違う視点からの質問とかもしっかり準備しておくべきだなって思いました。

○中高生弁論大会を終えて、生徒の感想

生徒１	聞き手を意識した発表をすることができなかった。発表内容が伝わったかと言われると、難しく伝えてしまってように感じる。緊張感を味わうことができた。もっと練習（発表練習）しておけばよかったと感じた。
生徒２	いつもとは違い大勢の前で発表したが、発表の機会が多くあったため、なんとかなるという感覚で発表に臨めた。 発表時は話すスピードが早くなってしまい、毎回だが準備を始めるのが遅いと感じた。今後発表の機会があれば、聞きたくなるような発表や聞き手にもわかりやすいものを作りたい。
生徒３	人が多いからこそ皆に分かりやすい説明して、聞いてくれる人の方をみて伝える気持ちで話すことを心がけることができた。 声がまだ小さかったなって思う部分があった。そのほか反省として、発表の前にもう一度話したいことを再確認するべきだと思った。早口になりかけてた。下かスクリーンしか見ていなかった。やっと前を向けたのが自分の発表が終わったあとだった。

6　担当教員から見た生徒の変容

今回の実践の対象となった生徒３名は、コロナウイルス感染症の影響で、高校生活の間で発表をする機会が少なかった学年の生徒である。３年生になって、発表の機会を数度設けたことで、聞き手を意識した発表資料の作成や発表方法についてもしっかり考えることができた。また、教科横断的学習についても、これまでは受け身の姿勢で授業に取り組むことが多かったが、生徒自身が主体的に実験方法を考えるなど、それぞれの個人探究にしっかり興味を持って取り組むことができたように感じる。

7　成果と課題

教科横断的学習に関しては、生徒だけでなく教員も学びを深めるいい機会となった。生徒とともに学んでいくのが、生徒も受け身にならず、主体性を引き出す結果になったように感じた。ただ、今回は教員も知識不足であることもあり、計画立てた実践を行うことができなかった。また、生徒の変容をはかるための事前アンケートも実施していなかったため、データとしては不十分な部分もある。今後は、計画やアンケートなどをしっかり行っていけるよう準備をしていきたい。

Ⅵ　実践報告Ⅱ

「SDGs 講座（現代の国語)」

１　取組の目的

国語科としての書くことの領域における資質･能力を育成するのはもちろんのこと、世界や他者に対し、より強い関心を持たせることを目的とした。

２　取組計画（取組の概要）

（１）教科・科目：国語科・現代の国語

（２）対象：１年生（49 名）

（３）概要：SDGs に関連したジェンダー・貧困・環境についての文章の執筆

以下に掲げる６つの問い（偏見）に対して、書籍の通読や専門家の話によって考えを深めた後に、反論する文章を執筆する。

【６つの問い】

ア　「同性婚を認める意味ってある？認められなくても、生活の中で困ることはないでしょ。それに認めてしまうと少子化がもっと進んでしまうのでは？」

イ　「男らしくしろ／女らしくしろって言うことの何が問題なの？むしろ大事な教育やん。オレは男なら泣くなとか男なら我慢しろとか言われて育てられて良かったと思っているけど」

ウ　「ウミガメみたいな海の生き物が絶滅することの何が問題なの？私たちの生活に絶対影響ないでしょ。保護するのはマグロとウナギとか、食べられる生き物だけでよくない？」

エ　「プラスチックのリサイクルってめんどくさい。燃えるゴミにぶちこんで燃やすのが一番楽やろ。そもそも資源がなくなってきているのは昔の人たちがいっぱい使ったからで、私たちにその責任はなくない？」

オ　「貧乏なのって自己責任なのでは？だってお金持ちの人はがんばって努力したから、儲けているんでしょ？そんな人が税金をいっぱい払って、お金がない人は税金を払わないで、しかも子ども食堂なんかで無料のご飯を食べられるのはずるくない？」

カ　「フェアトレードが大事って言うけど、服とかチョコレートとかの値段が高くなったら困るでしょ。だから、とにかく安い物を買うこの生活を改めるつもりはないよ。わざわざ高い物を買う人の気持ちは理解できないね」

３　実施時期：９月～11 月（全 15 時間）

○９月

・論理的な文章とはどういうものかについて学ぶ。

・書籍の通読を通して専門分野に対する知識を得る。

※９月 14 日　土佐清水市じんけん課・森氏による講演（ジェンダーについて、特に土佐清水市パートナーシップ・ファミリーシップ登録制度について）

○10 月

・中間発表（ここまでで得た知識をまとめて発表する）

・参考文献・引用文献の示し方について学ぶ。

・書籍の通読を通して専門分野に対する知識を得る。

○11 月

・学習したことをもとに文章を執筆する。

※11 月４日　環境省四国環境パートナーシップオフィス・常川氏と竹内氏による講演（SDGs 全体について、特に国際的な環境問題・貧困問題について）

4　取組の実際

・単元開始当初から、関心を持って取り組もうとする生徒が予想より多かった。

・書籍については高知県立図書館の協力を仰ぎ、SDGs・ジェンダー・貧困・環境に関するものを各 30 冊程度借りた。

・書籍の通読に困難を感じる生徒が多く、そのような生徒は拾い読みのような形になってしまった。

【生徒レポート例】

最近よく耳にする SDGs の目標の１つに「ジェンダー平等を実現しよう」というものがある。ジェンダーとは生物学的な性別ではなく、社会的・文化的につくられた性別のことを指す。そこで問題となっているのが男女差別だ。2021 年の日本のジェンダーギャップ指数は 156 カ国中 120 位とかなり低い。これは先進国の中で最低レベルであり各国がジェンダー平等に向け努力をしているなか日本が遅れを取っていることを表す。ジェンダーギャップ指数を構成する教育、経済、保健、政治の分野の中でも日本では特に政治における順位が低い。その原因は国会議員や女性大臣の割合が著しく低く、過去に女性が首相を務めたことがないことだ。これも男女差別が関係している。

男女差別といっても女性であることを理由に不当な扱いを受けたり差別を受けたりする女性差別が今の時代多く見られる。女性差別には文化的性差による差別や偏見を表すジェンダー・バイアスやセクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスなどがある。また、男女の賃金格差も女性差別の一種だ。朝日新聞出版（2022）には、「厚生労働省の 20 年の調査によると、フルタイム労働者の賃金は男性が約 34 万円、女性は約 25 万円で、女性は男性の 74.3%しかない。正社員でも女性は男性の 76.8%にとどまる。男性は年齢が高いほど賃金が高くなる傾向があり、55～59 歳の約 42 万がピーク。一方、女性は 50～54 歳の約 27 万 5 千円がピークだが、男性に比べて賃金の上昇は緩やかだ」とある。男女の違いで賃金の格差が生まれるのは重大な問題だ。最近では「夫婦別姓制度」も話題となっている。

（中略）

そもそも男女の違いとは何だろうか。男は仕事、女は家庭という考え方はどこからきたのだろうか。本来この考え方はホルモンが関係している。高尾（2022）によると、「男性はテストステロンという攻撃性や闘争心を高める男性ホルモンが多いから外で働く役割が合っていて、女性は子供を産み育てるための女性ホルモンや、愛情を司るオキシトシンなどのホルモンが多いから家庭を守る役割が合っている」とある。

しかし、本当に男女の違いは遺伝子やホルモン、進化の過程から生まれたものなのだろうか。私はそうではないと考える。この文章では私がそのように考える理由について述べていく。

男女の違いが生物が進化していく過程で身につけたものではないと考える理由の１つは固定観念が根強く残っているからだ。上記ではホルモンが関係していると述べたが意外な事実があった。高尾（2022）は次のように述べている。

過去の歴史を紐解くと、ペルーで見つかった 9000 年前の遺骨や埋葬品を調べたところ女性の狩猟者がいたことが明らかになりました。それを受け、米大陸で発掘された同時代の墓の調査結果を見直してみたら、狩猟者の３～５割は女性だった可能性があるという報告があります。

動物を狩る狩猟者は男性で、女性は木の実などを集める採集者としての役割を担っていたと言われてきましたが、その通説とは大きく異なる結果が出たのです。

今まで、狩猟者といえば男というイメージを持っていた。しかし、これらは昔から作られてきた固定観念であり、男性はこの役割が合っていて女性はこの役割が合っているなどはホルモンと関係のないことだったのだ。固定観念とは恐ろしいもので自分たちの視野を無意識に狭くしているのだ。

（中略）

これまで男女の違いについて述べてきたが LGBT が理解されつつある今、男女という視点で区別をするのは良くないのかもしれない。しかし、男らしさ、女らしさを追求している人や好む人もたくさんいると思う。アニメや漫画では男女を強調するような表現が多く批判の声も多々上がっているようだが私はロマンを感じる。これでも LGBT について理解しているつもりだ。つまり主張したいのは男女を否定するのではなく個人を肯定し尊重してあげることが大切だということだ。これは偏見になってしまうが固定観念が強かったり LGBT について理解が少ないのは昭和生まれの親世代に多いと思っている。今の時代を生きる私たちなら SDGs の「ジェンダー平等を実現しよう」という目標を達成することができると思う。

この世のすべての人が差別を受けず、自由に生きていける世界をみんなで作っていきたい。

〈参考・引用文献〉

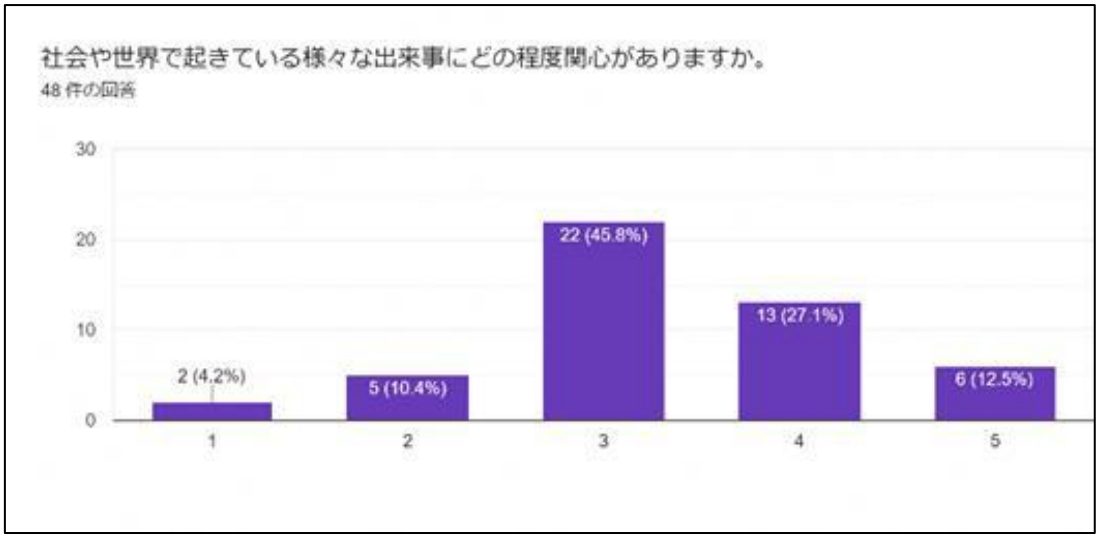
・朝日新聞出版（2022）『朝日キーワード　2023』朝日新聞出版

・森永康子（2002)『女らしさ・男らしさ　ジェンダーを考える』北大路書房
・高尾美穂（2022)『男女の役割への固定観念、もしかしてあなたも持っていない？』mi-mollet
(https://mi-mollet.com/articles/-/34639?layout=b)（2022 年 12 月 9 日閲覧）
（後略）

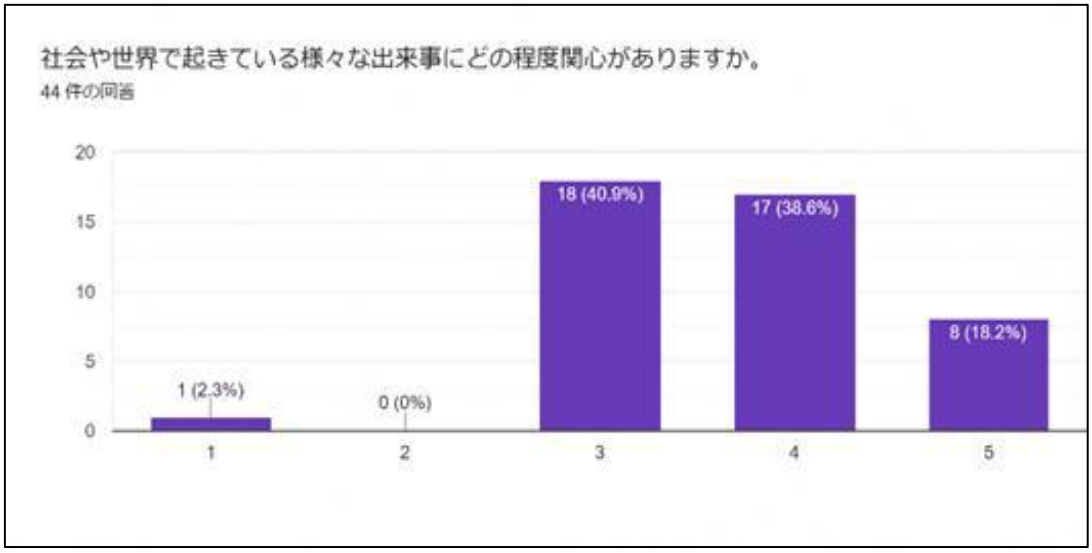
５　生徒の変容

「社会や世界で起きている様々な出来事にどの程度関心がありますか」（５段階の自己評価、１：全く関心がない、５：とても関心がある）という質問を、（１）単元開始前（９月当初)、（２）11 月４日講演後、（３）12 月初旬レポート提出後の３回聞いた。次に示した結果の通り、（１）から（２）において、社会や世界に対する関心が全体として有意に上昇していると言える。また、単元後に質問した（３）では、（２）と比較して大きな変化は見られなかったが、５「とても関心がある」を選択した生徒がわずかに増加した。

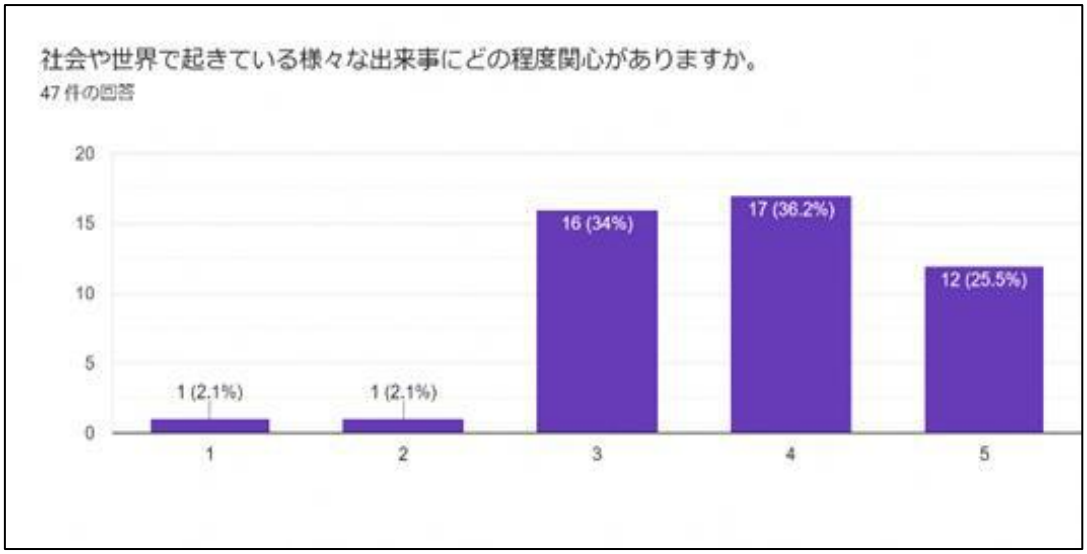
（１）単元開始前（９月当初）



（２）11 月４日講演後



（３）単元終了後（12 月レポート提出後）



○変容が見て取れる生徒の振り返り（原文ママ、強調＝稿者）

・現代では、なかなか自分の意見を長文にしたり、書いた文を他者に見てもらい意見をもらうことがあまりないので見られることは恥ずかしかったけど、感想をもらってここがダメだったんだ。ここがよかったんだ!!と気づくことができたので良かったと思います。**今回、自分が長文を書いたり、文を変な文のところを直すことに対して案外好きで自ら楽しみながらやっているという驚きました。**もしまたできるのであればまたやってみたいです。

・**本を今まで以上に読み返したり、分からないところを調べたり、自分の考えをしっかりと言葉に表わしたり**して、本の内容を積み木を積み上げるような感覚ですごい理解できたし、世界の知らないことについても、それなりに知ることができて

面白かったからです。

・3500 字、文章作るのは**初め本当に嫌でした**。読書感想文も昔から苦手だったので結局いい文章はできなかったのですが、**とてもいい経験ができました**。自分で文章を作るのが苦手だからこそ、普段絶対に取り組まないことを授業で経験できたので良かったです。

6　成果と課題

・多くの生徒が今までに書いたことのない文章量（2000 字以上）を執筆するという経験をすることができた。

・参考引用文献の示し方を理解できないままの生徒が多く、指導方法には課題が残った。

・4 で述べた通り、世界や他者により強い関心を持たせるという目的はある程度達成できた。

・前向きに取り組んだ生徒が多く、授業内容を学校の中で閉じたものとするのではなく、世界に開かれたものにすることの効果が感じられた。

・読むことに指導が偏っていることが指摘され続けているのはよく知られている。今回の「書くために読む」という内容設定の方法は読む力をつけるという点でも読みたいという意欲を喚起する意味でも効果があったと思われる。このような読むことへの必然性を与える指導方法は引き続き開発していきたい。

Ⅶ　実践報告Ⅲ

「21 世紀のジョン万育成プロジェクト」

1　取組の目的

国際的な視野を用いたり多様な他者と協働する中で、自ら課題や目的を設定し、その解決に向けて主体的に活動できる能力の育成

2　取組計画（取組の概要）

（1）青少年グローカルリーダー育成フォーラム 2022 夏

ア　対象：２年生（５名）

イ　概要：高知県青年国際交流機構（Kochi IYEO）と JICA 四国が共催する国際交流フォーラム「青少年グローカルリーダー育成フォーラム 2022 夏」に意見プレゼンターとして参加

ウ　実施時期と取り組みの実際：５月～８月

○５月～７月

・２年生を対象にフォーラムへの参加者を募り、５名（男子３名、女子２名）が希望する

・Kochi IYEO 代表の前田正也氏とのプレゼンスキルアップ講座（オンライン）が始まる

・プレゼンスキル向上のみならず、異文化理解や、自己実現に向けた情熱と行動の重要性を学ぶ

・発表原稿が完成すると、プレゼン練習が始まる。聴衆を惹きつけるプレゼン方法を体験的に学ぶ

・８月 14 日のフォーラム本番までに、上記の前田氏や高知大学、高知県立大学の学生をメンターに延べ 10 回ほどのオンライン講座で学ぶ

○８月

・６日校内プレゼン発表

・14 日フォーラム本番　9:30～16:00　オーテピア高知図書館４F ホール

45 人のプレゼンター（日本人 27 人、外国人 18 人）が３つのグループに分かれて、プレゼンを行う。その後、４，５名のグループでプレゼン内容についてディスカッション。外国人や異年齢の人との交流を行う（小学生から高齢者まで）

・プレゼンテーマと内容

A（２年生男子）	引き寄せられて	自身のバイク事故の原因を分析し、そこから得た教訓をプレゼンテーション
B（２年生女子）	生き方が変わった	やりたいことがまだ見つからない自分自身に対する叱咤激励
C（２年生女子）	時間も忘れて	飽き性の私が人生をかけて学びたいものに出会い、没頭している日々について
D（２年生男子）	あの歌が僕を変えた	人生の節目で僕を救ってくれた歌がある。あなたにとってそんな歌はありますか
E（２年生男子）	Aim for Authenticity	普段なんとなく生活しているなかで、常に本物を追及する思考の大切さ

エ　生徒の変容

	参加の動機（４月）	身につけたい力（４月）	フォーラム直後の振り返り（８月）	フォーラムから６か月後の振り返り（２月）
A	進学を考えているから、その取り組みの一つとして。	自分の考えをまとめてわかりやすく伝えれるようになりたい。	ホールで知り合いがいない中での発表になったけど、最後まで内容が飛ばずに発表することができました。また、少しアドリブも混ぜたり少し歩きながら発表するなど細かいところも工夫することができました。聞いてくれていた人も、爆笑までは行かなかったけど、少し笑みを浮かべてくれていたので嬉しかったです。 その後のディスカッションでは、僕の発表以外の人のものについても話し合って様々な意見や考え方を聞けたので参加してとても良かったなと思いました。午後からの活動では様々な人と意見交流をすることで自分自身の成長にもつながったなと思いました。とても貴重な経験ができたので、ぜひ次回からも参加したいなと思います。	年齢や国籍が違う人がたくさんいたので自分のなかで新しい考えや発見も見つけることができました。またグローカルの活動を通して自分に自信がついたし、元々みんなの前で話すのは苦手ではなかったですが、さらにうまく話すことができるようになったと思います。もしこの活動を体験していなければ将来、人と話すことを仕事にしたいと思っていなかったと思います。この活動はとても貴重なものになりました。
B	先生に勧められたから。	知らない人とでも、関りを持つことが好きな自分になりたい。	失敗もなく、堂々と自分のプレゼン発表ができたと思います。　私がプレゼンをしている時、うなずいてくれる方が何人かいて、とても嬉しかったし、そのおかげで安心して言いたいことを言えました。発表は最初はすごく緊張したけど、前で喋っているとだんだん慣れて途中から自分の心から言えている感じがしました。 原稿もなかなかできないし今まで大変で正直「や	あの時は自分だけ作文がなかなかできなくて嫌になりそうでした。でもそれを乗り越えることが出来て、辛いことをなんとかして乗り越えるという経験ができたので良かったと思っています。他人の前で話すときも、前よりも肝が座ったと言うかそんな感じにできるようになったような気がします。そして、こんな経験を積むことで恐れみたいなのを感じにくくなっているような

			りたくないな」と思うことが何回かあったけど、プレゼンをやり終えた今、挑戦してよかったと思えています。とてもいい経験になりました。 8月14日以前の自分より少し成長したような気がします。みんなと最後までやりきれたことが嬉しいです。	気がします。他人と話すことや他人に自分の意見を言うこと、人前で発表することに慣れることができました。私はこんな経験をしたんだと、自分に自信が持てました。
C	大学生と交流できる機会はあまりないし、海外と関わるという点にも興味を持ったから。	人前で話すと緊張でうまく話せなくなる時があるから、しっかり話せるようになりたい。	発表では、かなり自然に、話しかけるような口調で落ち着いてできたのでとても良かったです。のちのディスカッションでも、私のプレゼンを見てくれた人に褒めていただいたり、作品についても良い感想をもらえたりすることができてとても嬉しかったし、いい体験でした。午後の部では自分たちの生活、考え方などについて熱い討論ができて、私にとってもとてもためになる話や、共感できる話などがたくさんあったのですごくいい時間でした。参加して良かったなと思いました。	自分の発表に自信を持つことができるようになり、その際の振る舞い、声の大きさなどがこれまでよりも良いものになった。ディスカッションでも、様々な年齢、国籍の方との交流を通して新しい視点で物事を見られたし、様々なことを知ることができて、とてもいい体験でした。この体験を活かすためにも積極的に発表の場に立ち、自分の意見を堂々と伝えるようにしたいと思います。
D	将来の夢で教師を考えているので、プレゼン能力は必要だと思ったから。	自分の考えていることをわかりやすく伝えられる力を身につけたい。	話し始めたら緊張が取れて、聞いている人を見渡しながらゆっくり話すことができた。でも、抑揚をつけて話すのが少し難しかった。他校の人は身振り手振りがあったのでそれも勉強したいなと思いました。ディスカッションでは、他の人のスピーチを元に新しい魅力を見つけられました。その場で聞かれたことにすぐに考えて意見を言うのが難しくて、後で考えたら、こんな事あるなというのがでてきたので、それが聞かれたときにパッと出てくるようになりたいなと思いました。	本番のプレゼンでは、緊張はしたけど、落ち着いて冷静に話すことができました。これがきっかけで、緊張する場面でも余裕を持つことができるようになりました。グループディスカッションでは、その場で即興的に自分の考えを話すことの難しさを知ることができました。僕は教師になるという夢があるので、この経験を生かして更にプレゼンテーションスキルをつけて、生徒にわかりやすい授業ができるように頑張りたいです。

E	先生に勧められ、このような機会はないので受けようと思った。	人の前でもあまり緊張せずに自分の意見を言えるようになりたい。	いつもは頭の中が真っ白になったりするんですが、今日は逆に人前で話すことが楽しいとプレゼン中に思っていました。この様に感じたのは自分の話す内容が良い物だから、どんな人の前でも堂々できるような内容だから、プレゼン練習をしていたから、今日の様な気分を味わう事が出来ると思いました。このイベントに参加できて、本当に言葉に表すことが出来ないくらい良かったと思っているし、全力で取り組んだモノの結果はとても良い結果として返ってくるということを再認識することが出来ました。	できることなら記憶を消してもう一度この体験をして、あのとき発表し終わった後に感じた達成感をもう一度体験したい。その日初めてあった人と意見交換し、人それぞれ考え方は違うし、その人が思ったことがその人なりの答えなので、自分とは違う新たな考えを聞くこともできた。そして何よりこの活動をしたことで自分のストロングポイントは何なのかを発見し、それを伸ばすきっかけにもなりました。

オ　成果と課題

〇成果

・振り返りアンケートの内容から、チャレンジすることで得られる達成感や自己有用感が、別の学習や活動に効果的に紐づき、またそれを生徒たちはメタ認知的に自覚できるようになった。

・他校の生徒の英語スピーチに刺激を受け、このプレゼンを英語に変えて、別の舞台で発表した生徒もいた。

・異年齢、異文化の人と意見交流をすることで多様な価値観や考えがあることを体験を持って知り、認め合うことの大切さに気づけた。

〇課題

・プレゼン原稿作成にとても時間がかかり、発表練習が十分ではなかった。魅力あるプレゼンとなるように話し方、抑揚、目線など細かなところまで意識し、聴衆を魅了するようなレベルまで到達したかった。

・オンラインでのプレゼン練習に大学生もアドバイザーとして参加してくれていたが、そこでの交流が期待したほど活発なものにならず、大学生と話ができる貴重な機会なので、プレゼン以外のことも相談できる場になれば良かった。

（２）海外大学留学生とのオンライン交流

ア　対象　全学年希望者

○９月 27 日台湾金甌女子高級中学との交流　26 名（１年８名　２年 13 名　３年５名）

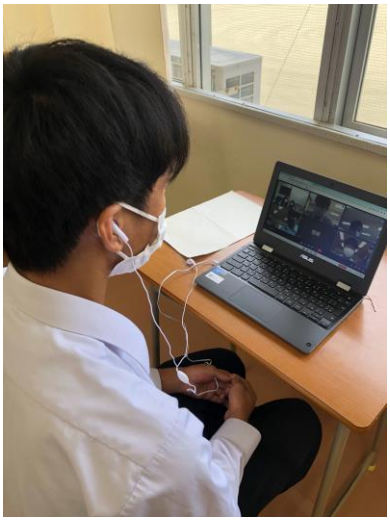
○11 月 22 日台北城市科技大学との交流 47 名（１年 11 名　２年 12 名　３年 24 名）

○12 月 21 日台湾金甌女子高級中学との交流　12 名（１年３名　２年９名）

イ　概要：台湾の女子高校及び大学とオンライン（Google Meet）でつながり、自己紹介や日本文化、土佐清水などを紹介し合う。12 月 21 日のオンライン交流では、SDG s の一つ「海の豊かさを守ろう」の観点から「海女文化」について調査・研究した内容を互いが発表した。

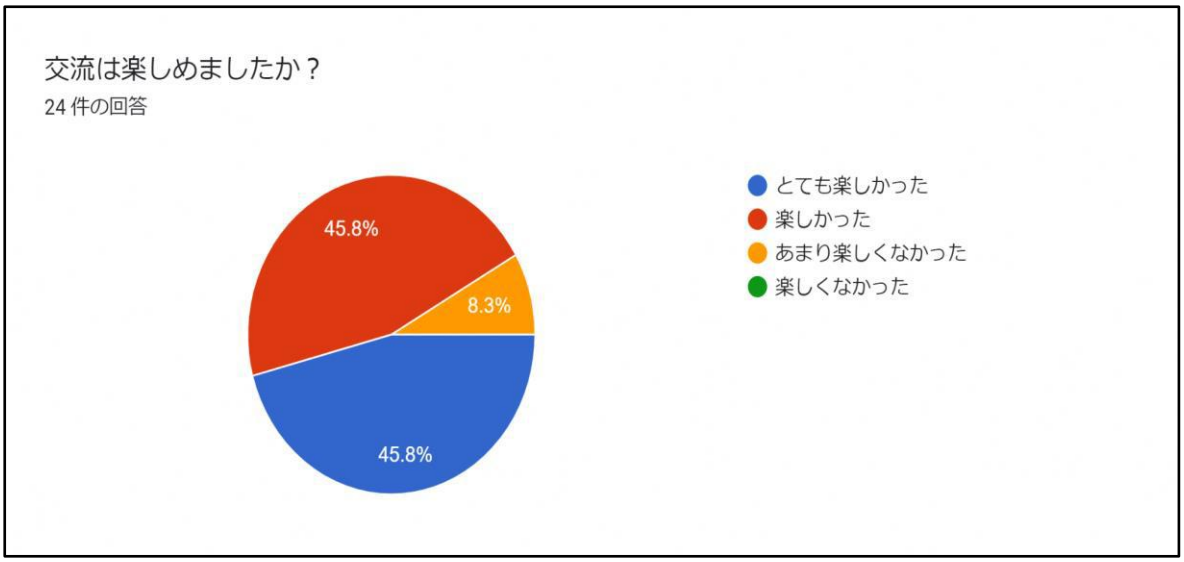
ウ　取組の実際

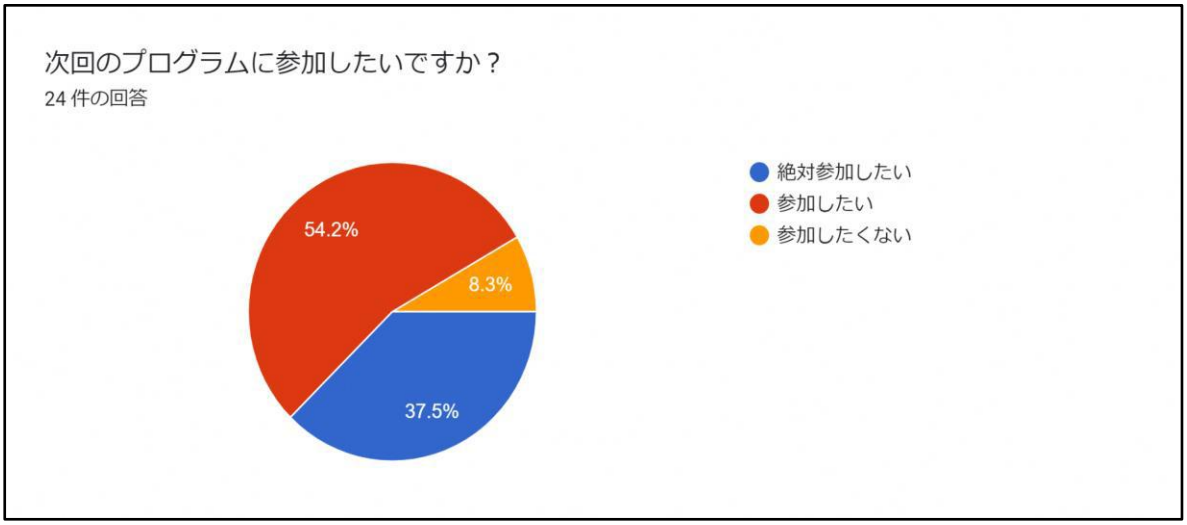
放課後の時間帯に１時間ほど３，４名程のグループに分かれ、ブレイクアウトルーム機能を使いながらグループディスカッションを行った。事前にプレゼン資料を作成し、それを画面共有しながら、英語で交流を行った。



エ　生徒の変容

○９月 27 日金甌女子高級中学とのオンライン交流事後アンケートより





・国境を超えて自分たちと同じ世代の人たちとコミニュケーションをとれる機会は滅多にないので今回の交流に参加できてよかった。だけど自己紹介以外喋ることができなかったのでもっと積極的に話せたらよかったなと思った。（２年女子）・SNS で繋がって中国語の仕組みとかも教えて貰えたし本当にやって良かったです。ただ、自分の準備不足や対応能力の低さを痛感しました。これからこんな機会があれば、反省を活かしたいです。（１年女子）・ALT の発音とも、日本人が喋る英語の発音とも違った発音が聞けて新鮮でした。英語のレベルが高いと思ったし、英語教育がどのように行われているのか気になりました。時々聞こえてくる中国語も気になりました。（３年女子）・台湾の人たちは、リアクションも良くて話しやすかったです。でも、私たちはリアクションが若干薄かったように思えたのでもっと積極的に取り組みたいです。（１年女子）・学んだ英語で海外の人達と話すことはなかったので難しかったけど楽しかった。（２年男子）・もう少し英語を話せるようになりたい。（２年男子）

オ　成果と課題

〇成果

・普段学習している英語が、実際のコミュニケーションとして役立つことを体験的に学び、学習へのさらなる動機づけとなった。

・台湾の文化や歴史を学ぶ機会となり、中国との関係など国際的な課題を身近なものとして捉え学習できるようになった。

・オンライン交流後に個人的にSNSなどでつながり、国際交流を主体的に進める生徒もいた。
・海外の学生が、環境問題など SDGｓにどう向き合っているかなどを知るきっかけとなった。
・「次回のオンライン交流にも参加したい」という声が多く、主体性や積極性に課題がある本校生徒にとって、異文化交流の楽しさや、挑戦することの意義などを学ぶ貴重な場となった。

〇課題

・音声がクリアに聞こえず、交流に支障があった。
・英語での実践的コミュニケーション力が十分身についていない。そのため交流に入れず、活動に消極的な生徒が少なくなかった。

Ⅷ　研究報告

「学校設定教科・科目案の検討について」

1　検討内容等

・学校設定教科・科目「科学基礎（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)」に係るカリキュラム内容検討の概要
・検討の推移：学際的なカリキュラム開発において、教科等横断的な視点でのカリキュラム開発について、主に校内検討委員会で継続的に検討した。以下、検討内容の概要を記す。
・コンセプト：「持続可能なプログラム作り＝特定の人物に頼らない仕組み。

（1）第１回校内検討委員会において

目標	●自然科学・社会科学・人文科学について、幅広く身に付ける。 ●学術探究の方法を、大学等の手法を参考にしながら身に付ける。 ●将来に渡って探究を継続できる資質・能力を身に付ける。
内容	●郷土の自然・歴史・産業・福祉を題材に、グローバルな視点で探究する。 ●大学等の研究室から直接的な指導を受け、個別テーマを探究する。 ●探究の手法を身に付け、成果をプレゼンテーションおよびレポートにまとめるなど広く発信する。

（2）第２回校内検討委員会

総探・学校設定科目であつかう内容の再検討

1	ジョン万次郎の生涯を学ぶ
2	SDGｓについて、身近な視点で考える
3	最先端の科学技術について知る
4	最新の国際情勢について学ぶ
5	「海」について学ぶ
6	環境について、身近な視点で考える
7	土佐清水における産業の現状を知る
8	「災害」について学ぶ
9	土佐清水の地形について学ぶ
10	土佐清水の生態系について学ぶ

（3）第３回校内検討委員会

学校設定教科・科目のスケジュール・教材・課題について

◯スケジュール

〈R4 年度〉

１学期：育てたい生徒像の共有…コンソーシアムの計画より
　　科目の目標設定…計画から検討
　　各学年の到達目標
　　取り組む SDGs の選定
２学期：各科目で地域やグローバルを課題とする項目を実践
３学期：実践事例を集約及び検討

〈R5 年度〉

１学期：年間計画の立案
１～３学期：各科目で実践を続ける
※年度中に設置願の提出

〈R6 年度〉
１年生から段階的に実施

〇教材開発
〈人文科学〉
・万次郎の生涯を学ぶ
・万次郎と自分のエゴグラム（分析）（自分と万次郎を対比させたい）
・SDGｓについて、身近な視点で考える
・最新の国際情勢について学ぶ
・土佐清水市の財政状況
・土佐清水市の産業の現状
・土佐清水市の市政
・20 年後の土佐清水を作る

〈自然科学〉
・SDGｓについて、身近な視点で考える
・環境について、身近な視点で考える。
・森川海のつながり

〇課題
・教科に依ると設定科目の担当者に負担がかかる
・総探・教科との横断的設計（総探の計画と同時進行）
・設定科目がない中で１年間の実践をどのように行っていくか
・ジョン万の分析が可能か
・定期考査・評価をどうするか
・教科から作成すると、実際の担当者の負担となる
・２年目の実践内容が薄い
・総探・各科目との横断的設計

（４）第７回校内検討委員会
・学校設定教科・科目については座学ではなく体験的なもの
・イベントでは終わらせず、事前事後を大切に→外部との打合せが重要になってくる

（５）第８回校内検討委員会
これまでの議論のまとめ
・「今の時代」について知り、深く考え、取り組むことができるような内容とする。
・「思考」や「体験」を深めるためには、一定の input が必要である。
・生徒自身が「問」を持てるようにする。自由な設定は総合的な探究の時間で、学校設定教科・科目は絞ったテーマからの問で
・テーマは「ジョン万次郎」である。ジョン万次郎の生き方や考え方を土台にし、現代の諸課題の解決に向けた深い学びを達成させる。
・１年次では「学び方を学ぶ」内容とし、２年次以降では「自分の問」を立てられるようにする。

（６）第 18 回校内検討委員会
①現状・課題を知る
１年「SDGｓを説明しよう」
②問を立てる、エビデンスを学習、探究
１年「テーマ・課題設定」、２年「データサイエンス」「探究」
③まとめ、20 年後を考える
３年「レポート作成」「20 年後の〇〇」

「探究」の部分では、問い→探究→行動→振り返りを繰り返す

（７）第 21 回校内検討委員会

	１年	２年	３年
内容	SDGs の「５ジェンダー平等を実現しよう」「14 海の豊かさを守ろう」「16 平和と公正をすべての人に」について学ぶ	データの取り扱い方を学び、実際に仮説・データ収集・分析・考察→再度仮説・データ収集・分析・考察と繰り返しながら結論に向かう体験	20 年後を予測 そこに自らがどのように関わるか探究する
目標	３つのテーマについて、概要と世界・日本・地域のそれぞれで起きている問題について探究し、自らがその解決にどのように関わっていくかを考える基礎を培う	繰り返しながら結論に向かうことを体験しながらａやｂの資質・能力を身に付ける基礎を培う	未来を予測し、自らの関わりを考えさせる。 →ａ・ｂ・ｃの資質・能力を身に付ける
外部協力団体	【ジェンダー】 未定 【海の豊かさを守ろう】 黒潮生物研究所・足摺海洋館 SATOUMI・高知みらい科学館 【平和と公正をすべての人に】 未定	高知工科大学	

「学校設定教科・科目（科学基礎）」及び総合的な探究の時間　計画案（１年生）

月	回	総合的な探究の時間	手法等	資質・能力	備考
4	1	オリエンテーション			
	2	普通を疑うⅠ			
5	3	普通を疑うⅡ（変人講座）			みんなの進路委員会講義
	4	普通を疑うⅢ			振り返り
	5	進路選択の本質を問い直すⅠ			みんなの進路委員会WS
6	6	進路選択の本質を問い直すⅡ			
	7	進路選択の本質を問い直すⅢ			コース科目選択
	8	自然科学データ分析Ⅰ（仮説～実験～考察）			大学連携終日
7	9				
	10	１学期の振り返り			
9	11	進路選択の本質を問い直すⅣ			みんなの進路委員会WS
	12	進路選択の本質を問い直すⅤ			
	13	海外大生のストーリーを聞く			
１０	14	進路選択の本質を問い直すⅥ			コース科目選択
	15	なぜ探究をするのか			
	16	情報リストの作り方			課題探究メソッドP４０
	17				
	18	社会科学データ分析Ⅰ（データ収集～統計～考察）			大学連携終日
	19				
	20				
	21	思考を広げる・まとめるツールの学習			
	22				
	23				
	24				
	25				
1	26	テーマ・課題設定Ⅰ			
	27	テーマ・課題設定Ⅱ			
	28	テーマ・課題設定Ⅲ			
2	29	テーマ・課題設定Ⅳ			
	30	テーマ・課題設定Ⅴ			
	31	活動計画Ⅰ			
3	32	活動計画Ⅱ			
	33				
	34	テーマ・課題宣言			
	35	１年間の振り返り			

月	回	科学基礎Ⅰ	手法等	資質・能力	備考
4～7月	1	オリエンテーション			
	2	SDGｓとは			
	3	SDGｓを説明しようⅠ－①			SDGｓから一つ選ぶ
	4	SDGｓを説明しようⅠ－②			どのような問題か
	5	SDGｓを説明しようⅠ－③			世界の具体例
	6	SDGｓを説明しようⅠ－④			日本の具体例
	7	SDGｓを説明しようⅠ－⑤			清水の具体例
	8	SDGｓを説明しようⅠ－⑥			まとめ
	9	SDGｓを説明しようⅠ－⑦			発表
	10	SDGｓを説明しようⅠ－⑧			発表
	11	振り返り			
9～11月	12	コアカリキュラム			
	13	コアカリキュラム			
	14	コアカリキュラム			
	15	コアカリキュラム			
	16	コアカリキュラム			
	17	コアカリキュラム			
	18	コアカリキュラム			
	19	コアカリキュラム			
	20	コアカリキュラム			
	21	コアカリキュラム			
	22	振り返り			
12～3月	23	SDGｓを説明しようⅡ－①			SDGｓから一つ選ぶ
	24	SDGｓを説明しようⅡ－②			どのような問題か
	25	SDGｓを説明しようⅡ－③			世界の具体例
	26	SDGｓを説明しようⅡ－④			日本の具体例
	27	SDGｓを説明しようⅡ－⑤			清水の具体例
	28	SDGｓを説明しようⅡ－⑥			まとめ
	29	SDGｓを説明しようⅡ－⑦			発表
	30	SDGｓを説明しようⅡ－⑧			発表
	31	振り返り			
	32	SDGｓの広がり①			Ⅰ・Ⅱの関連性
	33	SDGｓの広がり②			その他の課題との関連
	34	SDGｓと自分			学習したSDGｓと自分との関わり
	35	1年間の振り返り			

「学校設定教科・科目（科学基礎）」及び総合的な探究の時間　計画案（２年生）

月	回	総合的な探究の時間	手法等	資質・能力	備考
4	1	オリエンテーションなぜ探究をするのか			
	2	普通を疑うⅣ（変人講座）			みんなの進路委員会講義
	3	普通を疑うⅤ			振り返り
5	4	探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	5	探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	6	探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
6	7	探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	8	探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	9	探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
7	10	探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	11	１学期振り返り　夏休み・２学期計画			
9	12	確認			
	13	ゼミ発表（現状報告）			
	14	ゼミ発表（現状報告）			
	15	ゼミ発表（現状報告）			
１０	16	追加計画			みんなの進路委員会伴走有？
	17	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	18	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	19	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
１１	20	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	21	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	22	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	23	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
１２	24	追加探究（個人）			みんなの進路委員会伴走有？
	25	２学期振り返り			
1	26	発表準備			
	27	発表準備			
	28	発表準備			
2	29	ゼミ発表（現状報告）			
	30	ゼミ発表（現状報告）			
	31	ゼミ発表（現状報告）			
	32	４月までにやること計画			
3	33	４月までにやること計画			
	34				
	35	１年間の振り返り			

月	回	科学基礎Ⅱ	手法等	資質・能力	備考
4～7月	1	オリエンテーション			
	2	データサイエンスー①			https://www.stat.go.jp/teacher/comp-learn-03.html
	3	データサイエンスー②			工科大学と連携
	4	データサイエンスー③			
	5	データサイエンスー④			
	6	データサイエンスー⑤			
	7	データサイエンスー⑥			
	8	データサイエンスー⑦			
	9	予備			
	10	振り返り			
9～11月	11	コアカリキュラム			
	12	コアカリキュラム			
	13	コアカリキュラム			
	14	コアカリキュラム			
	15	コアカリキュラム			
	16	コアカリキュラム			
	17	コアカリキュラム			
	18	コアカリキュラム			
	19	コアカリキュラム			
	20	コアカリキュラム			
	21	振り返り			
12～3月	22	webデザインー①			
	23	webデザインー②			
	24	webデザインー③			
	25	webデザインー④			
	26	ホームページ作成Ⅰー①			Googleサイト使用
	27	ホームページ作成Ⅰー②			Googleサイト使用
	28	ホームページ作成Ⅰー③			Googleサイト使用
	29	ホームページ作成Ⅰー④			Googleサイト使用
	30	ホームページ作成Ⅰー⑤			Googleサイト使用
	31	ホームページ作成Ⅰー⑥			Googleサイト使用
	32				
	33				
	34				
	35	振り返り			

参考資料（高校魅力化評価システムの結果　令和４年度）

© Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.

Details 詳細結果

① 学習活動（明示的なカリキュラム）

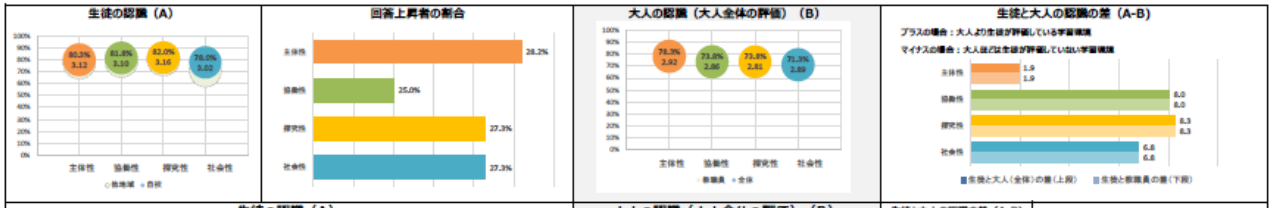
● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	国著上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合(%)
主体性に関わる学習活動	**59.8%**	**10.88**	**8.81**	**52.0%**	**-1.81**	-	**63.5%**	**9.62**	**40.0%**	**68.8%**	**28.43**	-	-	-	-	-
5 自主的に調べものや取材を行う	79.4%	21.99	12.59	75.5%	17.82	-	80.8%	23.08	48.0%	84.4%	39.21	-	-	-	-	-
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	40.2%	-0.24	5.03	28.6%	-21.43	-	46.2%	-3.85	32.0%	53.1%	17.64	-	-	-	-	-
協働性に関わる学習活動	**86.3%**	**5.09**	**11.11**	**84.4%**	**6.15**	-	**84.6%**	**6.41**	**34.7%**	**90.6%**	**5.68**	-	-	-	-	-
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	90.7%	0.23	6.46	89.8%	1.33	-	88.5%	0.00	24.0%	93.8%	-3.02	-	-	-	-	-
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	95.3%	-0.42	6.90	95.9%	-0.24	-	92.3%	-3.85	32.0%	96.9%	0.10	-	-	-	-	-
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	72.9%	15.45	19.95	67.3%	17.35	-	73.1%	23.08	48.0%	81.3%	19.96	-	-	-	-	-
探究性に関わる学習活動	**78.5%**	**-1.81**	**9.85**	**70.9%**	**-10.81**	-	**88.5%**	**6.73**	**31.0%**	**82.0%**	**0.58**	-	-	-	-	-
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	70.1%	-2.25	6.78	63.3%	-9.81	-	80.8%	7.69	28.0%	71.9%	4.13	-	-	-	-	-
11 話し合った内容をまとめる	86.0%	3.00	8.36	83.7%	2.90	-	92.3%	11.54	28.0%	84.4%	0.50	-	-	-	-	-
12 活動、学習のまとめを発表する	69.2%	-12.76	4.24	51.0%	-29.75	-	92.3%	11.54	32.0%	78.1%	-8.97	-	-	-	-	-
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	88.8%	4.74	20.02	85.7%	-6.59	-	88.5%	-3.85	36.0%	93.8%	6.65	-	-	-	-	-
社会性に関わる学習活動	**67.9%**	**-0.17**	**15.05**	**69.4%**	**6.57**	-	**65.4%**	**2.56**	**33.3%**	**67.7%**	**1.04**	-	-	-	-	-
14 地域の魅力や資源について考える	76.6%	-2.09	22.40	75.5%	-5.26	-	76.9%	-3.85	32.0%	78.1%	-2.52	-	-	-	-	-
15 地域の課題の解決方法について考える	73.8%	-0.64	17.82	71.4%	2.20	-	76.9%	7.69	36.0%	75.0%	0.81	-	-	-	-	-
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	53.3%	2.21	4.92	61.2%	22.76	-	42.3%	3.85	32.0%	50.0%	4.84	-	-	-	-	-

※3年生、4年生の「国著上昇者率」は「上昇率」シートを確認いただけます

© Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.

② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）



● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

	生徒の認識（A）								大人の認識（大人全体の評価）（B）				生徒と大人の認識の差（A-B）		
	全体	昨年度との差	地域との差	全体	学年別				全体	昨年度との差	うち教職員	昨年度との差	生徒と大人（全体）	生徒と教職員	
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	回答上昇者	1年生	2年生	3年生	4年生	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)	大人質問項目
主体性に関わる学習環境	**80.3%**	**1.47**	**2.59**	**28.2%**	**73.0%**	**86.5%**	**86.3%**	-	**78.3%**	**1.22**	**78.3%**	**1.22**	**1.9pt**	**1.9pt**	
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	78.5%	-3.41	-0.63	29.1%	61.2%	92.3%	93.8%	-	75.0%	2.78	75.0%	2.78	3.5pt	3.5pt	5 失敗を恐れずに挑戦することができている
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	95.3%	3.84	4.23	20.0%	91.8%	100.0%	96.9%	-	90.0%	-4.44	90.0%	-4.44	5.3pt	5.3pt	13 挑戦する人に対して、応援することができている
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	83.2%	-0.86	1.84	30.9%	77.6%	84.6%	90.6%	-	80.0%	2.22	80.0%	2.22	3.2pt	3.2pt	6 目標や当事者意識を持って挑戦することができている
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	65.4%	5.85	8.37	32.7%	61.2%	73.1%	65.6%	-	-	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	67.3%	-0.80	3.34	36.4%	61.2%	73.1%	71.9%	-	65.0%	3.89	65.0%	3.89	2.3pt	2.3pt	7 向春の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている
28 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	92.5%	4.23	2.98	20.0%	89.8%	92.3%	96.9%	-	85.0%	1.67	85.0%	1.67	7.5pt	7.5pt	14 誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている
35 周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	86.0%	-	-0.41	-	77.6%	92.3%	93.8%	-	75.0%	-	75.0%	-	11.0pt	11.0pt	22 子どもの自己決定を尊重できている
36 生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	73.8%	-	0.97	-	63.3%	84.6%	81.3%	-	-	-	-	-	-	-	-
協働性に関わる学習環境	**81.8%**	**0.66**	**2.74**	**25.0%**	**75.0%**	**87.5%**	**87.5%**	-	**73.8%**	**-2.64**	**73.8%**	**-2.64**	**8.0pt**	**8.0pt**	
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	81.3%	3.65	1.47	27.3%	75.5%	84.6%	87.5%	-	80.0%	13.33	80.0%	13.33	1.3pt	1.3pt	8 人と違うこと、異なった意見を尊重している
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	82.2%	0.33	0.24	30.9%	69.4%	100.0%	87.5%	-	80.0%	2.22	80.0%	2.22	2.2pt	2.2pt	9 ありのままの個人を尊重している
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	86.0%	-0.19	3.32	21.8%	85.7%	80.8%	90.6%	-	80.0%	2.22	80.0%	2.22	6.0pt	6.0pt	15 自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している
26 立場や役割を超えて協働する機会がある	77.6%	-1.15	5.91	20.0%	69.4%	84.6%	84.4%	-	55.0%	-28.33	55.0%	-28.33	22.6pt	22.6pt	16 立場や役割を超えて協働している
探究性に関わる学習環境	**82.0%**	**1.42**	**1.49**	**27.3%**	**74.0%**	**90.4%**	**87.5%**	-	**73.8%**	**0.14**	**73.8%**	**0.14**	**8.3pt**	**8.3pt**	
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	82.2%	-0.74	0.19	27.3%	73.5%	92.3%	87.5%	-	75.0%	25.00	75.0%	25.00	7.2pt	7.2pt	10 本音を気兼ねなく発言できる
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	80.4%	5.91	2.37	29.1%	69.4%	88.5%	90.6%	-	50.0%	-27.78	50.0%	-27.78	30.4pt	30.4pt	11 地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	88.8%	1.55	2.13	21.8%	83.7%	92.3%	93.8%	-	95.0%	6.11	95.0%	6.11	-6.2pt	-6.2pt	17 生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができている
31 お互いに問いかけあう機会がある	76.6%	-1.02	1.26	30.9%	69.4%	88.5%	78.1%	-	75.0%	-2.78	75.0%	-2.78	1.6pt	1.6pt	18 お互いに問いかけあう機会がある
社会性に関わる学習環境	**78.0%**	**0.38**	**7.43**	**27.3%**	**71.9%**	**80.8%**	**85.2%**	-	**71.3%**	**-16.25**	**71.3%**	**-16.25**	**6.8pt**	**6.8pt**	
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	88.8%	2.61	6.14	21.8%	81.6%	96.2%	93.8%	-	75.0%	-19.44	75.0%	-19.44	13.8pt	13.8pt	21 地域で生徒を育てるという意識を持っている
25 興味を持ったことに対してすぐに援助をしてくれる大人がいる	81.3%	4.71	4.30	32.7%	75.5%	84.6%	87.5%	-	85.0%	1.67	85.0%	1.67	-3.7pt	-3.7pt	19 生徒の関心に合わせて、機会を提供できている
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	72.9%	-2.63	8.29	23.6%	69.4%	73.1%	78.1%	-	70.0%	-18.89	70.0%	-18.89	2.9pt	2.9pt	20 地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	69.2%	-3.18	10.99	30.9%	61.2%	69.2%	81.3%	-	55.0%	-28.33	55.0%	-28.33	14.2pt	14.2pt	12 自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている

© Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.

③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合 (%)	差(pt)	割合(%)	割合 (%)	差(pt)	差(pt)	割合 (%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる自己認識	**62.6%**	-4.71	-5.64	**54.8%**	-10.02	-	69.2%	4.40	19.4%	69.2%	7.45	-	-	-	-	-
【自己肯定感・自己有用感】	58.9%	-7.08	-3.32	45.9%	-19.47	-	69.2%	3.85	16.0%	70.3%	10.64	-	-	-	-	-
51 自分にはよいところがあると思う	66.4%	-8.11	-6.44	55.1%	-21.82	-	73.1%	-3.85	12.0%	78.1%	10.38	-	-	-	-	-
52 私は、自分自身に満足している	51.4%	-6.04	-0.20	36.7%	-17.11	-	65.4%	11.54	20.0%	62.5%	10.89	-	-	-	-	-
【課題設定力】	66.4%	-1.73	-5.54	61.2%	-0.31	-	69.2%	7.69	20.0%	71.9%	4.13	-	-	-	-	-
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	66.4%	-1.73	-5.54	61.2%	-0.31	-	69.2%	7.69	20.0%	71.9%	4.13	-	-	-	-	-
【行動力】	53.3%	-5.77	-11.00	44.9%	-14.72	-	59.6%	0.00	26.0%	60.9%	14.16	-	-	-	-	-
40 目標を設定し、確実に行動することができる	57.0%	-0.44	-6.44	53.1%	-0.78	-	57.7%	3.85	28.0%	62.5%	17.34	-	-	-	-	-
53 自分で計画を立てて活動することができる	49.5%	-11.11	-15.56	36.7%	-28.65	-	61.5%	-3.85	24.0%	59.4%	10.99	-	-	-	-	-
【粘り強さ】	73.8%	-2.76	-2.65	70.4%	-0.75	-	78.8%	7.69	16.0%	75.0%	-0.81	-	-	-	-	-
37 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	78.5%	-2.35	-2.08	73.5%	-14.99	-	84.6%	-3.85	8.0%	81.3%	3.83	-	-	-	-	-
47 困難な物事に取り組むことができる	69.2%	-3.18	-3.21	67.3%	13.50	-	73.1%	19.23	24.0%	68.8%	-5.44	-	-	-	-	-
協働性に関わる自己認識	**74.4%**	0.99	-0.57	**69.4%**	1.70	-	76.9%	9.23	23.2%	80.0%	5.81	-	-	-	-	-
【受容力】	95.3%	0.65	2.55	91.8%	-4.32	-	100.0%	3.85	24.0%	96.9%	3.33	-	-	-	-	-
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	95.3%	0.65	2.55	91.8%	-4.32	-	100.0%	3.85	24.0%	96.9%	3.33	-	-	-	-	-
【対話力】	96.3%	5.84	6.82	98.0%	17.19	-	92.3%	11.54	20.0%	96.9%	3.33	-	-	-	-	-
42 相手の意見を丁寧に聞くことができる	96.3%	5.84	6.82	98.0%	17.19	-	92.3%	11.54	20.0%	96.9%	3.33	-	-	-	-	-
【表現力】	54.7%	-1.18	-6.38	45.9%	-0.24	-	57.7%	11.54	20.0%	65.6%	12.40	-	-	-	-	-
49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	55.1%	-6.56	-11.88	46.9%	-6.91	-	65.4%	11.54	24.0%	59.4%	4.54	-	-	-	-	-
50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	54.2%	4.21	-0.89	44.9%	6.44	-	50.0%	11.54	16.0%	71.9%	20.26	-	-	-	-	-
【共創力】	71.0%	0.82	0.54	65.3%	-3.92	-	76.9%	7.69	32.0%	75.0%	-2.42	-	-	-	-	-
44 共同作業だと、自分の力が発揮できる	71.0%	0.82	0.54	65.3%	-3.92	-	76.9%	7.69	32.0%	75.0%	-2.42	-	-	-	-	-
探究性に関わる自己認識	**68.5%**	1.14	-0.43	**65.3%**	3.44	-	70.7%	8.24	27.4%	71.5%	6.01	-	-	-	-	-
【学びの意欲】	71.7%	2.86	1.42	67.3%	5.81	-	70.5%	8.97	28.0%	79.2%	6.05	-	-	-	-	-
38 家や塾で、誰かに言われなくても自分から勉強する	70.1%	0.94	-1.63	69.4%	11.70	-	65.4%	7.69	28.0%	75.0%	-2.42	-	-	-	-	-
61 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	63.6%	9.30	4.56	57.1%	7.14	-	61.5%	11.54	28.0%	75.0%	20.16	-	-	-	-	-
67 学習を通じて、自分が知りたいことが増えている	81.3%	-1.67	1.32	75.5%	-1.41	-	84.6%	7.69	28.0%	87.5%	0.40	-	-	-	-	-
【情報活用能力】	72.9%	2.15	0.94	70.4%	3.10	-	76.9%	9.62	32.0%	73.4%	7.31	-	-	-	-	-
45 情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	76.6%	2.17	-1.66	75.5%	10.13	-	76.9%	11.54	44.0%	78.1%	3.93	-	-	-	-	-
46 勉強したものを実際に応用してみる	69.2%	2.14	3.54	65.3%	-3.92	-	76.9%	7.69	20.0%	68.8%	10.69	-	-	-	-	-
【批判的思考力】	58.4%	-5.82	-3.03	55.1%	-7.38	-	65.4%	3.85	28.0%	57.8%	1.92	-	-	-	-	-
41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	42.1%	-5.82	-3.87	38.8%	-7.38	-	50.0%	3.85	28.0%	40.6%	1.92	-	-	-	-	-
54 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	74.8%	-	-2.20	71.4%	-	-	80.8%	-	-	75.0%	-	-	-	-	-	-
【省察力】	70.1%	0.94	-3.53	69.4%	7.85	-	69.2%	7.69	16.0%	71.9%	7.36	-	-	-	-	-
48 自分を客観的に理解することができる	70.1%	0.94	-3.53	69.4%	7.85	-	69.2%	7.69	16.0%	71.9%	7.36	-	-	-	-	-
社会性に関わる自己認識	**68.1%**	4.13	3.74	**62.3%**	10.24	-	62.9%	10.84	29.1%	81.0%	14.98	-	-	-	-	-
【地域貢献意識】	63.9%	3.58	3.19	56.5%	10.31	-	55.1%	8.97	26.7%	82.3%	21.00	-	-	-	-	-
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	50.5%	6.85	5.44	40.8%	17.74	-	34.6%	11.54	24.0%	78.1%	36.19	-	-	-	-	-
56 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	67.3%	2.40	2.31	59.2%	9.18	-	57.7%	7.69	32.0%	87.5%	22.98	-	-	-	-	-
58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	73.8%	1.49	1.81	69.4%	4.00	-	73.1%	7.69	24.0%	81.3%	3.83	-	-	-	-	-
【社会参画意識】	73.2%	3.71	5.98	66.7%	14.10	-	70.5%	17.95	32.0%	85.4%	11.22	-	-	-	-	-
57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	53.3%	5.40	4.44	40.8%	17.74	-	53.8%	30.77	40.0%	71.9%	17.04	-	-	-	-	-
62 地域や社会での問題やできごとに関心がある	78.5%	4.04	6.84	73.5%	15.78	-	76.9%	19.23	44.0%	87.5%	6.85	-	-	-	-	-
55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	87.9%	1.68	6.67	85.7%	8.79	-	80.8%	3.85	12.0%	96.9%	9.78	-	-	-	-	-
【グローカル意識】	67.0%	5.28	3.13	63.9%	8.82	-	64.1%	8.97	30.7%	74.0%	8.37	-	-	-	-	-
59 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	75.7%	8.68	5.99	73.5%	19.62	-	73.1%	19.23	40.0%	81.3%	10.28	-	-	-	-	-
64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	77.6%	3.10	7.47	75.5%	-5.26	-	73.1%	-7.69	12.0%	84.4%	13.41	-	-	-	-	-
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	47.7%	4.05	-4.06	42.9%	12.09	-	46.2%	15.38	40.0%	56.3%	1.41	-	-	-	-	-
【持続可能意識】	68.2%	3.86	2.12	62.2%	6.48	-	61.5%	5.77	26.0%	82.8%	21.52	-	-	-	-	-
60 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	62.6%	4.11	3.97	57.1%	14.84	-	50.0%	7.69	24.0%	81.3%	16.73	-	-	-	-	-
68 自分の将来について明るい希望を持っている	73.8%	3.62	0.26	67.3%	-1.88	-	73.1%	3.85	28.0%	84.4%	26.31	-	-	-	-	-

© Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）

● 10pt以上の増加　● 0～10ptの増加　● 減少

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	実習上昇幅	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる行動	**72.0%**	3.88	3.71	**68.4%**	-0.86	-	**73.1%**	3.85	30.0%	**76.6%**	7.21	-	-	-	-	-
71 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	75.7%	3.36	-2.67	73.5%	-3.45	-	76.9%	0.00	24.0%	78.1%	0.71	-	-	-	-	-
74 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	68.2%	4.39	10.09	63.3%	1.73	-	69.2%	7.69	36.0%	75.0%	13.71	-	-	-	-	-
協働性に関わる行動	**63.1%**	-2.87	-6.52	**58.2%**	-1.45	-	**63.5%**	3.85	32.0%	**70.3%**	4.18	-	-	-	-	-
72 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	63.6%	-2.41	-5.41	55.1%	-6.44	-	65.4%	3.85	32.0%	75.0%	7.26	-	-	-	-	-
73 友人などから、意見やアドバイスを求められた	62.6%	-3.34	-7.64	61.2%	3.53	-	61.5%	3.85	32.0%	65.6%	1.11	-	-	-	-	-
探究性に関わる行動	**67.8%**	3.40	3.66	**64.3%**	4.67	-	**73.1%**	13.46	24.0%	**68.8%**	1.01	-	-	-	-	-
75 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	67.3%	3.46	1.55	63.3%	1.73	-	76.9%	15.38	24.0%	65.6%	1.11	-	-	-	-	-
76 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	68.2%	3.33	5.76	65.3%	7.61	-	69.2%	11.54	24.0%	71.9%	0.91	-	-	-	-	-
社会性に関わる行動	**46.4%**	-0.75	3.04	**46.3%**	10.36	-	**43.6%**	7.69	26.7%	**49.0%**	3.80	-	-	-	-	-
69 いま住んでいる地域の行事に参加した	35.5%	-11.29	0.38	32.7%	-1.96	-	38.5%	3.85	20.0%	37.5%	-7.66	-	-	-	-	-
70 地域社会などでボランティア活動に参加した	35.5%	2.54	3.58	34.7%	15.46	-	26.9%	7.69	24.0%	43.8%	11.49	-	-	-	-	-
77 先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	68.2%	6.52	5.15	71.4%	17.58	-	65.4%	11.54	36.0%	65.6%	7.56	-	-	-	-	-

⑤ 学習・その他

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	実習上昇幅	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	割合(%)	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	差(分)	差(分)
91 平均的な学習時間【平日】	76.26	-	-8.09	67.76	-	-	34.23	-	-	123.44	-	-	-	-	-	-
92 平均的な学習時間【休日】	132.62	-	-11.59	131.43	-	-	81.92	-	-	175.63	-	-	-	-	-	-

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	実習上昇幅	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	差(pt)
90 この学校を中学生におすすめできる	83.2%	-	3.03	83.7%	-	-	88.5%	-	-	78.1%	-	-	-	-	-	-
78 国際社会の課題解決に貢献したい	57.9%	-1.63	1.85	46.9%	8.48	-	46.2%	7.69	24.0%	84.4%	23.08	-	-	-	-	-
79 まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	57.0%	0.63	4.91	46.9%	-6.91	-	50.0%	-3.85	32.0%	78.1%	20.06	-	-	-	-	-
80 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	36.4%	-2.91	-8.62	28.6%	5.49	-	30.8%	7.69	28.0%	53.1%	17.64	-	-	-	-	-

⑥ 大人向け調査

	大人向け調査（全回答平均）			大人向け調査(教職員のみ)		
	全体	昨年度との差	他地域との差	全体	昨年度との差	他地域との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)
25 この学校を中学生におすすめできる	80.0%	-	-6.41	80.0%	-	-4.72
26 この学校に関わってよかったと思う	90.0%	-	-0.45	90.0%	-	0.69
27 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	45.0%	-	-32.09	45.0%	-	-29.03
28 [教職員のみ]地域・社会との協働を通して、授業の質の向上につながっている	70.0%	-	6.67	70.0%	-	6.67
29 [教職員のみ]地域・社会との協働を通して、自身の資質・能力の向上につながっている	70.0%	-	-1.26	70.0%	-	-1.26
30 [教職員のみ]地域・社会との協働を通して、学習意欲が高まった生徒がいる	70.0%	-	0.75	70.0%	-	0.75
31 [教職員のみ]地域・社会との協働を通して、業務負担感の軽減につながっている	15.0%	-	-3.05	15.0%	-	-3.05

© Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.

⑦ 生徒のウェルビーイング

10pt以上の増加　0~10ptの増加　減少

	全校				1年生（2021入学生）			2年生（2020入学生）			3年生（2019入学生）			4年生（2019入学生）			
	全体	昨年度との差	他地域との差		学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差	学年	3年次との差	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)		割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	差(pt)	差(pt)
主体性に関わるウェルビーイング	**58.6%**	-10.27	-0.41		**44.2%**	-30.22	-	**71.8%**	0.00	36.0%	**69.8%**	13.81	-	-	-	-	-
81 今の生活全般に対する満足度（0~10で評価：6以上の割合）	58.9%	-10.27	-2.63		42.9%	-30.22	-	73.1%	0.00	36.0%	71.9%	13.81	-	-	-	-	-
82 普段のあなたの幸福度（0~10で評価：6以上の割合）	60.7%	-	-1.56		44.9%	-	-	73.1%	-	-	75.0%	-	-	-	-	-	-
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	56.1%	-	2.95		44.9%	-	-	69.2%	-	-	62.5%	-	-	-	-	-	-
協働性に関わるウェルビーイング	**83.5%**	-0.45	-0.43		**78.9%**	-4.55	-	**88.5%**	0.00	8.0%	**86.5%**	3.73	-	-	-	-	-
86 この学校に入ってよかったと思う	87.9%	-0.45	2.09		87.8%	-4.55	-	92.3%	0.00	8.0%	84.4%	3.73	-	-	-	-	-
84 学校の一員だと感じている	86.9%	-	0.37		79.6%	-	-	92.3%	-	-	93.8%	-	-	-	-	-	-
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	75.7%	-	-3.76		69.4%	-	-	80.8%	-	-	81.3%	-	-	-	-	-	-
探究性に関わるウェルビーイング	**78.2%**	3.62	2.47		**72.1%**	-1.88	-	**82.1%**	3.85	28.0%	**84.4%**	26.31	-	-	-	-	-
88 【再掲】自分の将来について明るい希望を持っている	73.8%	3.62	0.26		67.3%	-1.88	-	73.1%	3.85	28.0%	84.4%	26.31	-	-	-	-	-
86 自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている	79.4%	-	1.48		75.5%	-	-	84.6%	-	-	81.3%	-	-	-	-	-	-
87 自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	81.3%	-	5.66		73.5%	-	-	88.5%	-	-	87.5%	-	-	-	-	-	-
社会性に関わるウェルビーイング	**61.7%**	2.80	-1.32		**52.0%**	9.42	-	**64.4%**	7.69	24.0%	**74.2%**	10.28	-	-	-	-	-
58 【再掲】将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	73.8%	1.49	1.81		69.4%	4.00	-	73.1%	7.69	24.0%	81.3%	3.83	-	-	-	-	-
60 【再掲】地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	62.6%	4.11	3.97		57.1%	14.84	-	50.0%	7.69	24.0%	81.3%	16.73	-	-	-	-	-
88 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	63.6%	-	-5.44		46.9%	-	-	76.9%	-	-	78.1%	-	-	-	-	-	-
89 日本の将来は明るいと思う	46.7%	-	-5.61		34.7%	-	-	57.7%	-	-	56.3%	-	-	-	-	-	-

© Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd.

参考資料（各種アンケートの結果）

令和４年度３年生

①高知県オリジナルアンケート（６月実施）

項目	R2	R３	R4
	1年次	2年次	3年次
学習すること自体がおもしろいから勉強をしている	28.6%	14.7%	30.3%
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している。	31.5%	38.2%	27.3%

①高知県オリジナルアンケート（11月実施）

項目	R2	R３	R4
	1年次	2年次	3年次
学習すること自体がおもしろいから勉強をしている	25.8%	39.4%	38.2%
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している	31.4%	30.3%	44.1%

②高校魅力化評価システム（11月実施）

項目	R2	R３	R4
	1年次	2年次	3年次
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ		38.7%	40.4%
将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたいと思う		41.9%	78.1%
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う		54.8%	56.3%

③学校評価アンケート（1月実施）

項目	R2	R３	R4
	1年次	2年次	3年次
私は高校卒業後の進路を決めている	51.3%	74.2%	87.0%
私は将来の夢や目標を持っている	36.1%	61.3%	
私は自分の夢や目標に結びつくような良い所や得意なことを持っている	37.8%	61.3%	78.3%
私は計画的に学習に取り組んでいる	43.2%	54.9%	67.4%
私は毎日家庭学習をしている	21.6%	38.8%	37.0%

令和４年度２年生

①高知県オリジナルアンケート（６月実施）

項目	R３	R4
	1年次	2年次
学習すること自体がおもしろいから勉強をしている	7.4%	未提示
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している。	7.4%	未提示

①高知県オリジナルアンケート（11月実施）

項目	R３	R4
	1年次	2年次
学習すること自体がおもしろいから勉強をしている	30.8%	未提示
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している。	26.9%	未提示

②高校魅力化評価システム（11月実施）

項目	R３	R4
	1年次	2年次
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	46.2%	50.0%
将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたいと思う	23.1%	34.6%
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	30.8%	46.2%

③学校評価アンケート（1月実施）

項目	R３	R4
	1年次	2年次
私は高校卒業後の進路を決めている	44.4%	70.0%
私は将来の夢や目標を持っている	66.6%	
私は自分の夢や目標に結びつくような良い所や得意なことを持っている	66.6%	75.0%
私は計画的に学習に取り組んでいる	59.2%	60.0%
私は毎日家庭学習をしている	51.8%	40.0%

令和4年度１年生

①高知県オリジナルアンケート（６月実施）

項目	R4
	1年次
学習すること自体がおもしろいから勉強をしている	32.7%
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している。	26.5%

①高知県オリジナルアンケート（11月実施）

項目	R4
	1年次
学習すること自体がおもしろいから勉強をしている	27.1%
地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している。	33.4%

②高校魅力化評価システム（11月実施）

項目	R4
	1年次
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	38.8%
将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたいと思う	40.8%
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	42.9%

③学校評価アンケート（1月実施）

項目	R4
	1年次
私は高校卒業後の進路を決めている	53.3%
私は将来の夢や目標を持っている	
私は自分の夢や目標に結びつくような良い所や得意なことを持っている	66.6%
私は計画的に学習に取り組んでいる	44.5%
私は毎日家庭学習をしている	35.5%

文部科学省指定事業
令和４年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業　普通科改革支援事業
実施報告書（第１年次）
令和５年３月発行
発行者：高知県立清水高等学校
〒７８７－０３３６　高知県土佐清水市加久見８９３－１
ＴＥＬ：０８８０－８２－１２３６　　ＦＡＸ：０８８０－８２－２２６４
Ｅ－Ｍａｉｌ：shimizu-h@kochinet.ed.jp